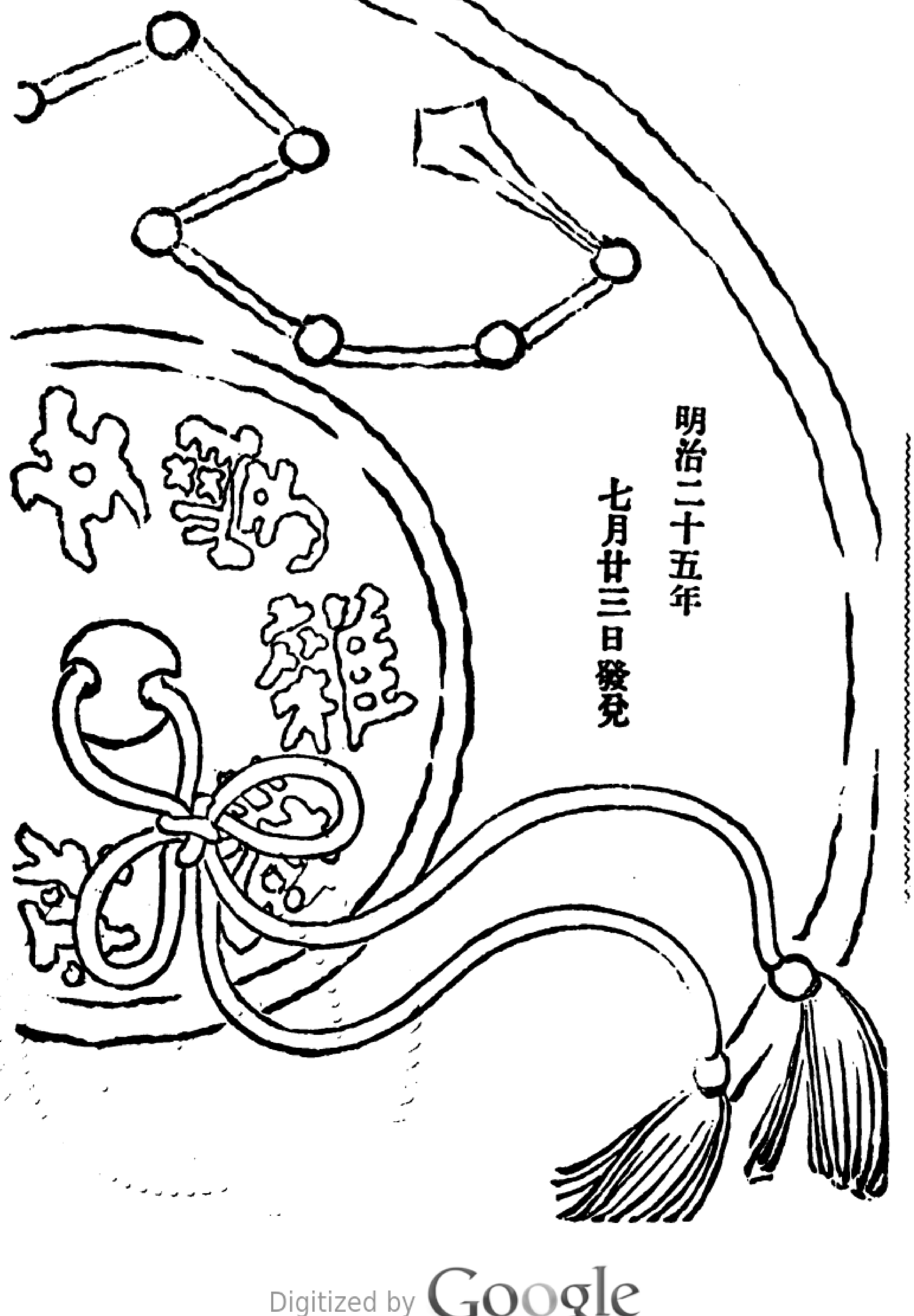
女學雜誌

第三百二拾三號

乙の巻



明治二十五年七月廿三日發兌

注意

○社說 南窓一筆（避暑の精粹、何人が出べき、夏休中の女學生）

○文藝 源氏明石の一段

○家政 衛生金玉消化器の事○皮膚の事○齒、目、及び髮の事○家政クラブの經歷（アバーデン女史）○アイスクリーム

○史傳 セキスピアが母○二條院讃岐の事

○雜錄 暑を避る經驗（山下石翁）○螢狩（田邊花圃）○事物紀元○明治女學校卒業式の歡迎及勸告○女子と愛國心

○女報

July 1892

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 323. JULY 23th. 1892.

EDITORIAL :—Going Away for the Summer.

LITERARY.—A Chapter in the Genji Monogatari.

THE HOUSEHOLD :—Sanitary Rules. (Digestive Organs, Epidermics, Teeth, Eyes and Hair.) Housekeeping Society ; About Icecream.

BYOGRAPHICAL :—The Mother of Shakespeare. Banishment of Nijoin to Sanuki.

MISCELLANEOUS :—My Experience in Going Away for the Summer. Hunting for Fireflies. The Origin of Things. The Graduating Exercise at the Meiji Jogakko. Women and Patriotism.

本號（第三百廿三號）目次

○社說　南窻一筆（避暑の精粹、何人が出べき、夏休中の女學生）

○文藝　源氏明石の一段

○家政　衛生金玉（消化器の事。皮膚の事。歯、目、及び髮の事）○家政クラブの經歷（アバーデン女史）○アイスクリーム

○史傳　セキスピアが母○二條院讃岐の事

○雜錄　暑を避くる經驗（山下石翁）○螢狩（田邊花圃）○事物紀元○明治女學校卒業學式の觀迎及び勸告○女子と愛國心

○女報

前週（第三百廿三號）白表

●社說　裝美覔（美術的功利論。器械的美術論。美の本領）

●論說　德川時代に於ける平民的理想（其二）透谷子。○新博士猪子吉人君（天知子）

●小說　乙女（は、あ）

●文藝　隨園詩話の數節（無名氏譯）

●批評　脫蟬子に與へて其「星夜」を評す（星夜の主人公となりし男）○脫蟬子の答○又の答（星夜の主公人ならざりし男）

●時事　後藤伯邸后の貧家

●附錄　教育學

前々週（第三百廿二號）赤表

●社說　卒業后の女學生

●史傳　ワシントンの母

●小說　慈番人（下）ひさご女史

●雜錄　花婿と花嫁の歌（大西祝君作）○女學校本科の學科につきて（櫻井ちか子）○ささりの歌（湖東生）○佛壇前の婚姻

●家政　洗濯の教○衛生金言

●寄書　ワシントンの傳

●女報

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第三百廿三號　明治二十五年七月廿三日發兌

社説

南窓一筆

○避暑の清粹

避暑とは世のならわせに隨ひて言ふなり、必らずしも暑さを避くるとのみ言ふの心にはあらず。吾等が暑さを避くるには、別に法なきにあらず、必らずしも、水に臨み、山に入り、木影にかくるゝとをのみ要とせず。たゞ吾等が避暑を可しとするは、其の熟れたる思ひを新たにし、靜かに省りみ深く慮かるに好き折を與ふるとのあるが故なり。朝日かゝやく比は、村雀踊り、夕ぐれさびしき比は、鳥、巣にかへる、而して、夜の雲うごき、月しづかに歩みを轉ずる時は、人の沈思靜念に適して好し。四時のうつり變りにも亦た此樣の季節あらんとを要せずや。此故に、たゞ肉躰に涼風を迎へんとならば、必ずしも、函嶺の峯に入るとなかれ、只だ液質の汗を拭はんとならば、必ずしも松島の月に嘯ふくとなかれ。夕顔しげる棚の下蔭、此般の趣きあらずとせんや。避暑の避暑たる所以のものは他にありて存す。

○何人か出づべき

避暑の主要は、人の思ひを轉ぜしむるにあり。此故に、平素常に一室に閉こもり、年中變化なき生涯の内に投じたらん人には、避暑の効いよ／＼著じるし。かゝる類ひの人に對しては、吾等は切に目下の避暑を勸め促がさゞるを得ず。而して此の類の人を何人ぞと云はゞ、即はち婦人女子なり、ことに一家を理し、終歳一室に籠城しがちの主婦たる細君其人こそ、何人よりも先づ此の避暑を要めずんばある可らざる也。朝たには夙く起きて障子を拂ひ、疊を掃き、膳を取出でゝは片付け、片付けては取出で、火を燒きては消し、消しては燒き、客あらば奔命に疲れ、客なければ子供に泣かれ、かくて宵に入り、伏戸の設け、戸締の用心に、夜ふくる迄殿ります。而して、其の用務を言はゞ、年中一徹にして、たとへば器關の車が同じ所を廻りに廻りて斷えて變化なきが如し。あゝ、かゝる人こそ即はち避暑を尤とも切に要するの人ならずや。然るに、今の世の避暑は之れに異なる、一年三百日、日々變化に

際して心の滯ふることなき男子のみ驕然大意張にて避暑の樂を專有し、彼の憫れむべき細君と見とは、家に遺されて、炎熱蒸すが如き密室内に息氣を續がんとはなす、何んぞ物事の顚倒すること如此く太甚しきや。良人は須からく言ふべし、平素は業務に忙はしくして、家の事をたゞ御身にのみ負はせ、終歲何の面白味もなく暮させたり、今は業務休となりたれば、切めては此間のみにても、御身、外に遊びて鬱を散じ玉へ、われは留守せんと。

されど、細君は必らずや之を諾ない玉ふまじ。良人、日夜業務に忙はしく、寸暇の御心を休め玉ふ時もあらざりき、今こそ靜かに思ひ玉ふ時なれ、休の間は常と變はりて家の事も少なければ、御留守して家にて十分保養することを得申すべけれ、良人、念をこの邊に掛け玉はず、速かに良友を伴なひて、切めては暫し御休みに出掛け玉へ、と。

双方とも、この心あらば、相語らひて双方ともに家に遺るとするも可し。更らに都合して双方もろともに出で遊ぶことすれば、更に尤とも可し。吾等は暑中の涼しからんを望めど、此間に於て、忙しき人のホームの極めて温かかならんことをのぞむ。

○暑休中の女學生

女學校の夏休は、大方、五六十日以上なるべし、此間だ、女學生は、成るべく其の郷里に歸省するを好しとす。久しく拜せざる父母の尊容を拜するは、言ふ迄もなく無限の幸ひなり、久しく別れたる其同胞と會ふは、樂しきこと此上なからん、幼なきより見なれたる山を見、夢にも忘れがたき風光を目のあたり眺めんこと幾干の愉快ぞ。此等は、歸省する女學生の受べき幸福なり。

左れど、歸省の用は、たゞに之のみにあらず、他に二の大切なる事柄あり。

女學校の塾舍にひそみて世上の有樣を知らず、書見に物事を空想して實際の世の景況を辨まへざる女學生諸君は、此間、歸省して直接、人に接し、多くの活きたる學問を修むることを得。ことに家政取締の工夫の如きは、其母なる人の實際に爲す樣を見て、大ひに發明する所ろあるべし。夏休は休と言へど、實は休みにあらず、大切なる學科を修むることを得るなり。且つ、餘りに久しく其家より離れて、吾家の家風と餘り

に遠く隔るゝときは、遂に不測の災を引起すとあり。吾家の家風にして若し改たむべきものあらば、共に力を合せて之を改ためざる可らず、たゞ其一人意見の異なるが故にとて離る可きにあらず。左れば、一家の人は可成く近く相ひ會ふを得策とす。女學生の如く、年中外にあるものは、ことに此際歸家して其家の團欒中に復し、其情を繼ぐを要す。

又た、女子教育の伸張を計るには、教育を受けたる活ける雛形を示すに如くものなし。もし一人の女秀才ありて、其德と其學とを温和やかに世に示したらんには、百回の女子教育演說を爲すにも優るべし、左れば、女學生は、女學の爲の生ける證據人として其郷に歸り、以て他の姉妹等を誘ひ勵ますべし。

この二つは歸省の爲めの大ひなる益あり。されど、女學生にして、果して生ける證據人となると能はず、反つて女學を無みするが如きとあらんには、其害も亦太甚し。父母兄弟に會はんとて行くにも、之に親しみ之と和らぐの心得十分にてあらずば、寧ろ反つて害あらん。覺悟あらば歸省に大幸あり、覺悟なくんば、歸省は災を生み出すもの也。

開書

謹啓本月一日發兌基督教新聞同十五日發兌の六合雜誌に於て私の譯したる基督之摸範を批評せられたる文を讀みて實に評者粗漏輕卒なるに驚き入申候御承知之如く同書之英譯書は數種あり私の譯したる原書はジョンへ井ン氏が英語に譯せられたるものに御座候然るに批評者は英譯書の數種ある事を知り賜はざるにや御自分の見せられたる書と對照して評せられしなり素より同譯文の拙なる事は緒言にも述し如くなれば文章の婉麗ならざると譯語の不適當の批評は謹て其教訓を受くべけれとも同評者の如きは暴評を以て漫りに人の名譽を毀損せらるゝ樣被存候清軒學人之批評中原語と譯語を對照する有り思に學人の見せられたる英書は私の譯せし原書と大に異なる所あり氏の言の如き誤譯は少しく英語を理解する人なればなさゝる可し基督新聞の批評に斯く貴重なる原書を譯するに當て原文の省畧云々の語あり之れ又原書を異にせられたるなる可しと存じられ候實に此の如き批評は購讀者又出版人に對し不面目に御座候間御繁忙中申上兼候得共御懇意に任せ强而願上候本日一二三館迄原書を送り置き申候に付御對照之上御說被下度此段奉懇願候頓首

七月十八日　櫻井ちか

巖本善治様

文藝

源氏明石の一段

無名氏

石山寺の名月にうかれて六十帖の面影をうつし、絶世の詩想鳰の海の風に老ひて、げに其やさしき心の波も天地の美の境に驚く。これを紫式部に求むべくして清氏に求むべからざるは、今こゝに註する源氏明石の一段のたぐひなるべし。

浦風やいかに吹くらん思ひやる
　　袖うちぬらしなみまなきころ。

哀に悲しきことゞも書き集め給へり。ひきあくるより、いとどみぎはまさりぬべくかきくらす心地したまふ。

天涯幾百里の外に都の空をのぞみ見ては、なにものか孤客の腸を断たざらん。ましてや源氏のごとき多情の人にして、そのこゝろあはれにやさしき方なれば、大風大雨の苦嘆を人世浮沈の眼前にとゞめて、いかでか故京の友を忍ばざらん。この歌は二條院紫の上より使にて消息を通じこせる、その端に記せしものなれば、紫の上がまた明石の空を思ふさまを示し、これによりて孤客の苦腸いやまさるよしを寫したるあるべし。源氏の嗚咽すでに讀者の耳底にひゞく思ひあり。

京にもこの雨風いと怪しき物のさとしなりとて、仁王會など行はるべしとなん聞え侍りし、内裏に參り給ふ上達部などもすべて道とぢて、政も絶えてなん侍るなど、はか〴〵しうもあらず、かたくなしう語りなせど、京の方のことゝ思せばいぶかしうて、御前に召し出でゝ問はせ給ふ。

唯例の雨のをやみなく降りて、風も時々吹き出でつゝ、日比になり侍るを、例ならぬことに驚き侍るなり。いとかく地の底通るばかりの氷降り、雷のしづまらぬことは侍らざりきなど、いみじきさまに驚き恐ぢて居る顏の、いと辛きにも心細さまさりける。

前の一節には紫の上の消息によりて、故京もまた風雨の惱みあるよしをいひ、この一節にては使者の口より都の光景を忍ばしむ。またその武骨なる心にも雷雨に怕るゝよしを記して、これをかのやさしき源氏の情にうつした

るさま、叙事すでに一歩をすゝめたるを見るべし。

かくしつゝ、世は盡きぬべきにやと思さるゝに、その又の日の曉より風いみじう吹き、潮高く滿ちて、浪の音荒きこと、巖も山も殘るまじき氣色なり。神の鳴り閃くさま、更にいはん方なくて、落ちかゝりぬと覺ゆるに、有るかぎり賢しき人なし。

前の二節にて、ひたすら源氏の雷雨に心細き樣を寫し出し、この一節に至りては力を極めて雷鳴のとゞろ／＼浪の音のどう／＼たるを畫かんとせり。

そも／＼古今の女性風雅の壇上に艶綺を爭ひしもの多しといへども、いかでかゝる詩想の潮波、沈痛悲壯の境に奔逸するものあらん。見よ香爐峯の雪に名殘をとゞめたる清氏といへども、その草紙のうちにて荒凉じきものといへば、晝もゆる火といひ、春の網代といひ、嬰兒のなくなれる產屋を數ふ。またそのおそろしきものといへば燒けたる所といひ、栗のいがといひ、髮多き男の頭洗ひてほすよしを數ふ。嗚呼これを石山寺の名媛が天地の大觀に比べては、その想波の高低いかにぞや。かれはおはれなり、しかれども淺し。これはゆかしくして、しかも深きところあり。

我はいかなる罪を犯して、かく悲しきめを見るらん。父母にもあひ見ず、悲しき妻子の顏をも見で、死ぬべきことゝなげく。君は御心をしづめて、何ばかりの過失にてか、この渚に命をば極めんと、强う思しなせど、いと物さわがしければ、いろ／＼の幣帛捧げさせ給ひて、住吉の神近き境をしづめ守り給へ、まことに跡を垂れ給ふ神ならば助け給へと、多くの大願を立て給ふ。

何ぞゝの意の悲壯なるや、何ぞゝの詞の遒勁なるや。深人淺語なしとは古人もいひけむ、この一節は我はいかなる罪に犯してといふより死ぬべきことゝ嘆くといふ迄を使者が驚怖悲嘆の詞とし、君は御心をしづめてといふよりこの節のおはり迄を源氏が他人と異りてかゝる時にも心を靜め神明に祈るよしを寫し、その性情のやさしきが中にも凡ならぬところあるを見したり。前節の結辭に、有るかぎり賢き人なしといひて皆恐怖に暮るゝよしをいへるは、この源氏が心をしづめてとあるに照應して一段

の悲愴を極む。

おの〳〵自らの命をばさるものにて、かゝる御身のまたなき例に沈み給ひぬべきことのいみじう悲しきに、心を起して、少し物覺ゆるかぎりは、身を代へて、この御身一つを救ひ奉つらんとぞよみて、諸聲に佛神を念じ奉る。

この一節は人々おのれの命を後にして先づ源氏を助けんと騷ぎあへるよしを寫したるなり。前に源氏の神を祈るよしは、この一節を得ていよ〳〵重し。

帝王の深き宮に養はれ給ひて、いろ〳〵の樂に驕り給ひしかど、深き御うつくしみ、大八島に普く、沈める輩をこそ多くうかべ給ひしか、今何のむくひにか、こゝら横ざまなる波風にはおぼゝれ給はん。天地ことわり給へ、罪なくして罪にあたり、官位を取られ家を離れ、境を去りて、明暮安き空なく歎き給ふに、かく悲しきめをさへ見、命盡きなんとするは、前の世のむくひか、この世のをかしか。神佛明にましまさばこのうれひ止め給へと、御社の方に向きて、さま〴〵の願を立て、又海の中の龍王、萬の神たちに願たてさせ給ふに、いよ〳〵鳴り轟きて、おはしますに續きたる廓に落ちかゝりぬ

明石雷雨の一段こゝに至りてその大段落に入らんとし、萬波相動いてひとしく天に冲るの趣を備へたり。源氏もとよりやさしき人なりといへども、天命の究せんとするときに當りて情の激發すること多感なる人の常なれば、天地ことわり給へといひ、前世のむくひか、この世の犯しかといふ如きはまた其胸中にかくれたる風骨の境遇に壓せられしもの、こゝにいたりて火炎を吐けるあるべし。清氏それいかにしてこの筆を奪ひ得む、いかにしてこの想を奪ひ得む。

明石の一段の終りにいたり、いよ〳〵鳴り轟きて、おはしますに續きたる廊に落ちかゝりぬと結ぶを讀みては、その詩見の女性の胸中を活動せしものなるに驚かざるはあらざるべし。

太宰純云く、天子の天下を治め玉ふ御者の馬を仕ふに似たる故に之を御宇と云ふなり宇宙を御するの意なり是より天子の事に皆な御の字を用ゆ御衣、御膳、御坐、御用、など云ふ是なり天子に非ずして御の字を用ゆるは不可なりと。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

家政

衛生金玉（下）

○　○

消化器のこと

食物はその種類の多き程をよろしとす。そは食物の種類によりておの／＼滋養となるところを異にするものなれば、或ものは筋肉の爲となり、或ものは神經腦部の爲となり、また或ものは肺臟の爲となるなり。この故に牛乳と玉子と小麥とはおの／＼其分量にしたがひて用ゆべく多く用ゐたりしとて必ず効能あるものに非ず。食物を選ぶには氣候のことを考へ、また食ふものゝ年配及び職業などを考へ合すべし、その人の身體の具合など、また消化力の加減なども食物には大なる關係あり、過分の食物を吃して消化器の力に餘るほどの度を過すはよろしからず。食事をなすには極て靜かにして、かつよく嚙碎くをよしとす。そは食物に口中の唾を混ずること多ければ、いよ／＼消化の力を助くればなり。食事をなすには必ず時を定めをきて、食事の間に物を食ふはよろしからず。劇勞をなさんとするものは食後凡そ二時間を經て後にすべく、しづかに運動するは食後大に消化を助くるの力あり。非常なる勞働をなして食事をなさんとするものは其間三十分程休むをよしとす。食事の間にはとき／＼冷水を飲むべく、藥用の外に刺激の飲料を吃するはよろしからず。

皮膚のこと

身體のうちにて最も心すべきは皮膚なりとす。すべて皮膚の間なる細毛管より體內の不淨物を排泄するものなれば、もしその細毛管を塞ぐとき、肺を損し躰內をいたむること驚くべき程なり。

これによりて冷水に身體を拭ふの必要あるなり。朝起きたるとき、または夜眠る前、必ず手拭を冷水に絞りて皮膚を摩擦し、のち乾きたる手拭にて其しめりたるを取るべし。これ風邪を避け、諸病を防ぐの最良法なり。

日中着曝したる衣服のまゝにて夜眠るは甚だよろしからず。そは日中皮膚より排泄したる不淨物の再び細毛管に返るべければなり。

あまり皮膚を衣服に包みて火に温むるはよろしからず、洗湯

に身を温めて白日日光を受け運動すること大切なり。身躰の弱きものには宜しからざれど、日中冷水に身を洗ひ、海水に浴して身の健全を圖るべし。すべて皮膚を日光にさらすは衛生長壽の最良法なりといふ。

齒、目、及び髪のこと

清水にて齒を洗ひ、しかるのち靜かに寢に就くべし。食後水にてかくなすもよし。齒をいたむる程の熱きものは强て飲食すべからず。かくすれば別に齒磨といふものを要せじ。

人は成るべく日光に向ひて其眼力を强うすべし。日光は人に大切のものなり、ことに眼にとりては欠くべからざるものとす。されば暗室にあるものは其眼力きはめて弱し。もし眼を使ひ過したりと思ふものあらば、少しづゝ又絶へずこれを用ゐよ。そは眼力といへども他の身躰の部分のごとく、之を用ゐざるときは反てあしき結果を生ずればなり。もし一方の眼よくとも一方の眼病めるときは必ず醫師の許にいたりて治療を受くべし。よき方の眼のみ使ふときは反てよきものも病むに至ることあり。冷水にて兩眼を洗ふはその神經を强うし、日に三四度眼蓋を摩擦すれば眼のために大によし。

髪を洗ひてこれを梳るは毛中の血をして毛根を養はしむるの益あり。髪の光澤を出さんとして名もしれぬ香油などを用ゆるは、却ておそるべきのことなりとす。

家政「クラブ」の經歷

アバーヂン女史手記

家政「クラブ」(A household club.) はアバーヂン女史の創立に成りて敎育と快樂との二を目的となし、あまたの家政を相連ねて一の「クラブ」をつくりしものなり。めづらしきまゝ之を讀者に紹介すといふ。

創立の次第

家政「クラブ」は同志のものゝ協議によりて起りしものなれば、先づ「クラブ」の目的を記したるものを其々知己の間に配布し、世に發表するまへ同志の會合を開きたり。この會合によりてまづ家政「クラブ」の創立に一致し、數ヶ條の極て簡單なる要約を作りて委員と書記と會長とを選びしが是は皆投票によりて爲せしものなり。この規約によりて毎年一「シルリング」(廿五錢位)づゝを拂ふものは之を會員の名簿に加

へ、すべて「クラブ」の社交上の集會または饗筵に列なることとを得るものとなし、一家を持てるものは十七歳迄の愛兒を伴ふことを許したり。また家々の主人の許諾を得て、冬期にいたるときは毎夜六時より七時十五分までを「クラブ」の爲に用ゆることゝなせしに、數日ならずして四十三の會員を得、これにつゞいて唱歌會といふもの起れり。唱歌會の起りしや、會員の數凡そ二十三名。これに次で起りしは繪畫會なり。繪畫會は會員十三名より成れり。其他唱歌と繪畫との會合のみに止まらず二十名より成れる家族讀書會といふもの起り、また裁縫會といふもの起りたり。これらの會は多く「クラブ」の中の重なる人によりて成るに非ざれば、會を設くるに便利なる家族によりて成りしものなり。「クラブ」一般の爲に設けたる社交の會合は毎週または一週置きに之を開きしに、これによりて得たる會員の利益は鮮からざりし。

「クラブ」の成効

同志の盡力によりて成りたる家政「クラブ」は翌年の年會にいたる迄に、いちじるき進歩を見たり。實にその報告には左の如き決果を生ぜしなり。

一 教育會(作文、數學、簿記、セークスピア研究などを旨とす)
一 繪畫會
一 唱歌會
一 縫箔會
一 速記會
一 慈善會(看病を旨とす)

これよりのち起りしものは、

一「クリケット」會
一「フートボール」會
一 園遊會
一「テニス」會(年若き女子によりて成る)

その他一々こゝに擧げ來らずといへども、その一般は推して知るべし。また更に意匠の新しきは幻燈を用ゐて講演を開けるものなり。二名の熱心なる會員ありてこれが爲に奔走盡力し冬期の間毎夜幻燈の力を借りて所々に講演の會を開き老幼に向ひて智識を與へたること一方ならず。

また會員のうちの志あるもの相約して一の畫樓を作り、おの〳〵その家に珍重せる古畫丹青を陳列して會員の快樂を養ふ

ところとなしたり。
以上は實に家政「クラブ」の經歴の概畧を記したるに過ぎずこれにより家族の共同を起して教育のため慈善のため又は優遊和樂の爲に非常なる進歩を生じたること僅少ならず。世の家政に志あるもの少しくわが「クラブ」に心を注ぎ給へといふ。

アイスクリーム

アイスクリームは氷菓子と譯す。或人、高利貸に此字を宛たるは慷慨の極みなり。アイスクリームは甘きものなるを。
牛乳六合。くず二匁半ほど（大スプーン一杯半）。レモン二つの皮を好く砕きしもの。上は乳六合。の割を種とす。
葛を溶き、牛乳を熱く煮たる中へ入れ、之に白砂糖を加えて好き加減に甘くし、レモンの皮（無くばレモン水）を入れ全卵を好く煮て之を混し、上は乳の中に混ぜる、而してのち之を氷らするなるが、少しく氷りたる時、レモン二つの汁を加ふ。前に示せし分量の種にて十七八人分は出來べし。砂糖を入るゝとき鷄卵の白味を加ふるとも宜し、又砂糖は多く加へて餘程甘くせざれば、氷りしのち甘からず。
氷らせるには、其道具あれども、若し無くば、錫の器に固く蓋をして、之に前に示せる液を入れ、此器を桶の内に入れて氷に鹽を混ぜたるものを、器の周圍に充たし、一時間ほどたえず之を動かすべし。尤とも其間に三四遍蓋をとりて改ため、氷りたる所と氷らざる所とを能くかき混ぜるべし、大抵氷りたる所にて、レモンの汁を入るゝなり。さて出來上りたる後も、氷をよく鎮め、いざ用ゆると云ふ時迄は、少しも温氣に當らぬやうになしをくべし。

氷レモナーデ

レモナーデ六合に鷄卵の白味六つを加え、よく混ぜて十分に泡を立たせ、のち前のアイスクリームと同様にして氷らす。
此他、ストロベリーにせよ、ミカン水にせよ、みな之と同様の手續にて、氷らすことを得べし。

吾家の花

若松しづ子譯

右次回よりまた引つゞき掲ぐべし。

史傳

セキスペアが母

松洲生譯

セキスペアが歷史について知り得るとはいと少し。殊に彼が父母の物語は近頃に至りて、漸く彼是れと人に知られぬ。さる英國の一紳士チヤーロッテー、パークのルーセー夫人が手よりセキスペアが母に關する事實を集め得たり。そは此紳士はセキスペア寶物については常ならざる熱心を以てあさりければ、ツールウイック、シヤイヤに於ける口碑等は彼に取捨されしといと多かり。されば彼が此大なる戲曲家に關せし事の報告は耳を傾くる價あるものなり。

彼がウイリヤム、セキスペヤが母マリー、アルデンと呼ぶ美はしき名の下に集め得し事實と云ふを、手短に物語れば、ストラトフオールトにアストンカントローの寺領にて、ウルムコートと呼ぶ小村あり。之に一度筇を曳きし人の忘れ能はざる所にて、此處ぞ百姓ロバートアルデンが末の女、即ちセキスペアの母の生れし所なり。其年月は知れ難けれど、紀元千五百三十四年と云ふが實なるが如し。ルーセー夫人は此年を確なりと云ひぬ。

彼女は父が最愛の子なりき。されば父が千五百五十六年に他界せし時、彼女は第一に其遺言の書に名指されぬ。又彼女は父が遺言によりて他の姉等に增して、いと柔和に養れたり。

ロバート、アルデンが小作人の一人にて、ウイルムコートの古き墓地に、ヤークーの父葬らんとて、從ひ行しものあり。是れぞセキスペアが祖父となりし人なり。其子なるジヨンセキスペア年は二十四にて其時は小商人なりしが、父と共に葬式に連りぬ。見ればまだ年若きマーリーが美はしき顏に涙の露棺の上に身を曲めて泣き沈める樣いたくジヨンが心を刺しぬ。いかで彼女を妻にせんよしもがなと、ジヨンは人知れず心痛めてありしに、マーリーも亦悪からず思ひて遂に千五百五十七年に、目出度結婚の式を擧げぬ。

ジヨンは是より彼女と共にヘンリー、ストリートなる己が家に住めり。此處は彼女が家を去る四哩計の田舍なりき。後今に至る迄大戲曲家の生し所とて、世に知れ渡しは此處なり。

マーリーが初めに擧げしは、女にて名をジヨンアンと呼びぬ

次なるも亦女子なりしが、生れて數月を經ざるに父母に先立ちぬ。

長男は千五百六十三年四月某日、ストラトフォールドの晝に其眼を開きぬ。是ぞ大戯曲家が浮世の風に當りしはじめなりき。あはれ母は彼を長男として、又末の子として年も傾き、遂にストラトフォールドの土となりぬ。時は千六百八年と知られし。

母が死に於ける彼が悲は其作『ヘンリー』五世に於て世の終り迄亡びざる筆を留めぬ。

"A testament of noble-énding love,

. . . . . it forced

Those waters from me which I would have stopped,

But I had not so much of man in me,

And all my mother into mine eyes

And gave me up tears."

二條院讃岐は頼朝の女なり嘗て言ふ世の人は皆な誕生の日を喜ぶめれど妾は反て之を痛む想へば當日母上の苦勞如何なりしぞと涙おちて食も咽に下らずと。或人は之に反し母の命日には佛前にて三味線をひき大聲あげて快よげに歌ふ人之に問へば答へて云ふ母は子の樂しむを喜こび玉ふべければ吾かくして樂しまば母上さぞやうれしく思さん是れ切てもの供養ならんと。

雜録

暑を避くる經驗

山下石翁

あつし〱と言ふときは、ます〱あつき心地す。あつしと思ふ心あつさを增すなり。あつしと言ひ離つ心すでに忍ぶ情を減らせしかば暑さを增すあり。あつしと言ふ言の葉熱してあつさを增す也。然のみならず、人は之を聞てあつしと思ひ、人の苦を增す。百の害ありて一の益なし。故にあつしと思はば、靜かに忍び、默して愼しむこそ好けれ。然るときは胸中に涼しき心地生じ、身邊に秋の風さと吹來る思ひ出で來る。あつしとて肌ぬぐ人あり。其上もしあつからんには、肉の皮をも剝ぐべきや如何に。凡そ人は、最後に一つの貯を所有すべし、貯ありと思ふときは氣、丈夫になりて、忍び易し。左れば暑きときも決して衣服を畧さず、況んや肌ぬぐなどの事はゆめにも愼しみ、もし最上の苦痛あらんとき「今ま一段の避暑法あり、其時には即はち肌をぬぐべし」と思ひて忍ぶときは、心地綽然微笑しつゝ暑さに堪へらるゝもの也。

冬は身躰ちゞまる、縮まる時は寒さを防ぐゆへ也。夏は身躰自づと伸ぶ、伸びる時は暑さを減ずるゆへ也。されば夏は特更ら正直にすることを要す、心正直にして身躰ゆらりとし、全身濶如として究屈する所ろなければ、心中清らかにして、夏の夜の月澄み、一流の波の上に穏かに映れる思ひあり。

あつしとて氷を飲むは得策にあらず、あつさは躰の外より來る、内を冷やすとて何かせん。内を冷かにするは、哲見、沈思の默想に若かず、神聖なる身躰の内面に器械的の清涼劑を入るゝを許さず。但しわれ氷を飲まざるにあらず、之を飲むは茶を飲むに同じ、たゞ一の飲料たるに過ぎず。もし涼を取らんとて飲料を用ひんには、寧ろ熱湯に若かず。

日本は中和温暖の國なり、此の國に居て、あつし〳〵など言ふ可らず、天幸を無みする恥かしき覺悟なり。

螢狩

田邊花圃

ゆふべ〳〵、凮立、草葉、うちそよぎ、そむれば、
あなた、こなた、螢よ、こよと、よぶ聲も、涼しな、
光り、したひ、つどひ、くるは、人のよの、さがとや、
手をば、引て、あふぎに招く、乙女らの、ゆかしさ。
あはれ、〳〵、とびかふ、螢、二てにぞ、わかれぬ、
火花、ちらし、かへしつ、よせつ、戰ひに、亂るゝ、
あなや、又も、遠く、はなれ、草村に、やすみぬ、
なべて、人の、光を、きらふ、如くにぞ、みゆめる。
螢、〳〵、こよこよ、螢、草村を、はなれて、
まどの光、文よむ、しるべ、これこそは、友なれ、
やみを、てらし、姿、さやに、とびかふも、なつかし、
袖に、たもと、螢と、ともに、うれしさを、つゝまめ。
螢、やよ螢、よるを、てらすごと、
われこそうきよの、やみをば
てらさん、光とならめ

事物紀元

電信機を初て建しは　後鳥羽天皇文治四年（頼朝惣追捕使になれる翌々年、千歳集成りたる翌年）

安息日學校の初て起りしは英國にて　崇徳天皇即位の年即ち天治元年（延暦寺興福寺の僧徒爭訴せしのち十一年。叡山の

僧圓城寺を焚くの前十四年)
風船の初て騰りしは佛國にて　鳥羽天皇保安三年（戰陣の名將八幡太郎死せしのち廿四年)
新聞の初て印刷せられしは米國にて　後朱雀天皇の長久三年(明經得業生を試課せしのち十年、藤原通房薨ずるの前年)
我國にて新聞の初て起りしは　文治元年四月横濱埋地百四十二番館にて播州の人アメリカ彦造と遠州人本間潜藏と今の岸田吟香との三氏にて造りしものなり
晴風計の始て出來しは　一條天皇の寛弘七年（安部晴明卒するのち五年)
鉄道の始めて出來しは　一條天皇正暦元年（所云る八十八万三千三百二十九人に課丁せしてふ年の后二年)
寒暖計の始めて出來しは和蘭にて　村上天皇の天德四年（後撰和歌集成りしのち九年)
望遠鏡の始めて出來しは獨逸にて　醍醐天皇の延長八年（聖賢の像を清涼殿に畫かしめし年の翌々年)
血液の巡行を始めて發見せしは　宇多天皇の寛平五年（菅原道眞類聚國史を上るの翌年)

針を始めて造りしは英國にて　光孝天皇即位の年即はち仁和元年（創めて奨學院を置くの后四年)
烟草を始めて發見せしはセント、ドミンゴにて　仁明天皇承和三年小野篁唐にゆくの年、僧空海寂するの翌年）日本に來りしは、慶長十年、南蠻國より得て長崎に植たるを始とす。
時計及びウパイチレンを發明せしは　嵯峨天皇弘仁八年（空海高野山を開くの翌年、諸國に茶を植し翌々年)
電氣を發見せしは　平城天皇の大同二年（白樂天、翰林學士となる當年、大同類聚方成るの前の年)
大砲を發見せしは　天武天皇の八年（始めて不破の關を置しのち六年)
火藥を發明せしは　天智天皇の三年（朝廷には揖讓し行路には相避くるの禮を制したる當年）我國に鉄砲の來りしは、天文八年薩摩に南蠻の船初めて持來り、其後泉州堺の橘屋又三郎之を丹青しそれより諸國に弘まる
窓にガラスを用ゆるの始は　孝文天皇の四年（阿房宮を作るの翌年、長城を築くの后三年)

結髮の始は　天武天皇白鳳十年
かみしもは　天正元年松永禪正少弼久秀はじめて用ゆ
三味線は　二百八十一年前文祿元年琉球より始めて渡る
淨瑠璃は　三百十八年前天正二年信長の侍女小野のお通始めて作る

歡迎及勸告

過日明治女學校に卒業式ありし時、余が勸迎の辭を演べ、且つ卒業生へ勸告したるを、或人筆記したり。大意は之にて明らかなりとて、其まゝ左に掲載せしむ。

今夕本校の第五回卒業式を執行いたし升るに付き、かく諸君の來臨を仰き升たとは、本校の幸なるのみならず、卒業生等が非常の光榮で御座り升。双方に代つて諸君に私より厚く御禮を申します。

今夕卒業證書及び證明書を領しまする生徒は、高等科に三名普通科に廿七名、師範科に六名、撰科に三名、武道に十一名、琴に四名、速記に七名で都合合計六十一名で御座り升が、同人が二科の卒業を兼て居りますゆへ、人數は實際四十六名です。人名は一々式の目錄書に認置ましたが、其人名の上に番號を付けましたは、前回の卒業生より數へましたそのゆへ、此番號によりて從來の卒業生の惣數を御承知を請ひます。

普通科と申しまするは、高等小學卒業后三年の學科を履みまして、當今一家の妻たり母たるに必要なる德と藝とを學ぶもので御座り升。この普通科修業の中に志を立て升て、一廉の專門の事業を爲さんとするものは、高等科に入りて三年學びます、本夕卒業の高等科生は即はち其第一回の卒業生で御座り升。尤とも近頃は之を二年に縮めて敎ゆるやうに致し升たが、今回の卒業生は、三年を經たるものであります。師範科は小學の敎師となる資格を敎ゆるもので、三年で學科を卒へ其后七ヶ月ほど實修を致すのです、本夕三名の修業生に證明書を與へまするは、此の實修のみが欠けて居るのであり升。

撰科は、晩學の人などが、普通科の中にて隨意の科を撰びて學ぶものです。武道は專ぱら鍛練修德を旨として敎授いたし升ので、當今　、薙刀、柔術、棒、などを敎へて居ります。

最初はじめました比は、世上にて彼此の評論もあるやうに聞きましたが、本校にて從來三年間の經驗を致して見ました處、兼て考へました通りの結果を得ることがいよ〳〵明白とあり升たゆへ、更に一層之を擴張する希望であり升。

序でに、一言、御聞を願置たきことは、本校の成立及性質のことであり升。本校はもと玆に掲げましたる一婦人木村鐙子が創立したるものであり升が、創立以來の精神を受嗣まして、現今は女子敎育に於ける同志者の一團結が之を維持いたして居りまするので、其同志者は悉皆基督敎信徒であります、故に敎育の基礎も、精神も、純然たる基督敎主義でありまして、之は、世上何如ほどに保守的反動が隆んになりまして固よりも、一歩も曲げぬことで、又些かも明言し主張するに憚からぬ所であり升。然し敎育と、所云る傳道とを別つ事、學科内に聖經を用ひ祈禱を用ゆるなどのなき事、其維持は日本人の手でいたし何處にも屬して居らぬ事、宗敎に於ても何の宗派と云ふものにも專ぱら屬せぬと等に於きましては、宣敎師諸君の女學校と全く成立を異にする所であります。

又女子敎育の目的及び方法に於きましても、世上普通の考と一々同様でないことを深く殘念に思ひます。「吾黨の女子敎育」と題する小冊子を世上に配布いたして、本校執る所の女子敎育の目的及び方法を告白いたして置きましたゆへ、こゝには更めて申しません。

之より卒業證書を授與いたし升に付、卒業生中の數名をして各學ぶ所ろ、志ざす所を少しく演ぜしめまするに付、御覽あらんことを願ひます。

勸告

今日更めて申迄もありませんが、斯る祝す可き機會は物事を新らしく感ぜしむるものでありますから、一言、勸告を致し升が、アナタ方は本校で定めた規則に從つて夫々の學科を學び了られたるに付、即はち卒業と稱へて卒業證書をお渡し致し升す。然し、この卒業とは兼て毎々申し升た如く、アナタ方が學問の業を卒へたと云ふ意味ではなく、只だ本校の階級に對する學問の一部分を了られた丈のことであり升。學問は、アナタ方が、一生涯爲さるべきもので、即はち完全なる人物となり了らるゝ迄は、凡そ學問の卒業と云ふことはありますまい。一生の目的は、完全の人物となるにありますれば、事業

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

とか、商賣とか、炊事とか、割烹とか、働とか、仕事するとか云ふものも、皆悉とく此目的に副はなければなりますまい、即はち皆な學問の主旨に適あわなければ成りますまい。故にアナタ方は一生此學問を廢することは出來ません、この天地間に充ち滿ちたる善、眞、美は何如ある所にも存して居ります。之を見出し、之を吸取り、之を我物にし、之に肉をつけて生ける吾人物の品德の内に發輝するは人間の天職で、且つ尤とも愉快なることでありましよう。夫で、この善眞美は如何なる所にも滿ち充ちて居りますから、たとひ地を穿つて水の出ぬ所はありましても、凡そアナタ方が心にきめて之を求めなさる所にこの三德の現はれざることは斷じてありません。茅屋の狹き臺所の偶でも、下婢が病に苦吟して居る部屋でも、飼犬が病に弱はりて息氣のたへ〴〵なる所でも、矢張り六合に彌滿する程の善眞美は存して居ります。此后は直接に之を求めて之をアナタ方の所有物となさるは、即はちアナタ方今后の學問であり、又事業であります。事業は學問、社會は學校。世の人々は敎師であり又同窓の學生であります。今后決して卒業の文字に迷ふて從來ふみ來られし進歩のアガキを止めてはなりません

夫故、アナタ方は今后夫々適する所ろにお這入なさい、何處にても學問が出來ます。普通科卒業の方で高等科に入るべき資格と精神とある人は之にお這入りなさい。然し本校に設けたるのみが、高等科の學問ではありますまい、普通科卒業の後ち、學問の精神を以て御學びになることは、皆夫々の高等科であり升。普通科の方々の中、多數の人は大方其家に歸らなければ成りますまい、之に付ても亦平生のアナタ方の覺悟をこの際一層確かめて貰ひたい。今の書生は、兎角、田舍に歸ることを嫌つて、學問をしたものは、東京に居るか、學校にでも居らねば役に立ぬやうに言ひますが、左樣な心得の人こそ眞に實際に役に立ぬものであります。本校の高等科に入るまじき方で、田舍に家のある方は早々歸つて、先づ其一家の内に從來學びたる處を活用し、又その内にて段々自分の經驗をお增なさい。凡そ遠大の思想を持ち、天地の人と云ふ覺悟を平生持つて居る時は、通常何如に小さしと見らるゝことをして居ても、其思は一部分に局促とせぬものです。夫故、眞に一家の經驗を得たる人は、之を一町村に適用することが出來ます

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

此の學校の内だけでも本當に經驗したる人は、社會に出て其經驗を平天下の役に立ることが出來ます。それ故、田舎に歸り、一家の主婦となることを、輕んじては成ますまい。もとより輕んじもなさるまいが、此際一層この精神を發揮なさい。

之より社會と云ふ學校に出らるれば、定めし新らしきこと計りでありましよう。固より之に驚ろきもなさるまい、此迄といへども、この學校で、段々新らしいことを學ばれたので學問は日に日に思はざる事物に接する是れが即はち學問となることとでありますれば、アナタ方が社會に立て新らしいことに出會はるゝは、固より當然の事であり升。決して失望落膽を爲さるな、イヨイヨ勇氣を鼓してお進みなさい、困難が來たらば、六かしひ試驗の問題が出たので、即はち力を現はすべき所であるから、奮つて之にお當りなさい。

たゞ此迄と違ふのは、諸君に接する人々が、必しも諸君に信切なる人でなく、諸君を取まく規則法律習慣等が、必しも諸君が善に發達することを直接に望み居るでなく、反つて諸君を迷はして墮落の谷の底に突き落さんとするものが多くありましよう。其時には、吾々と共にこの所ろに於て學んだこと、斷つたこと、約束したることをお忘れなさるな。然し徳と云ふものは、善惡の岐あるときに出來るもので、誘惑なければ、決して品徳は出來ぬものでありますから、固より感謝して其誘惑とお戰なさるが宜しい。(聖經朗讀)

女子と愛國心

左は或人の疑に對し書して與へしものなり

女には愛國心なしと論ずる仁あり、奇怪なる申し條と謂ふべき哉。夫れ、女は愛情の切なるものなり。然るに國を愛するの一點にのみ愛情冷やかなりと云ふは、不可思議にはあらずや。人を深く思ふ人は、亦た深く家族を思ふ、深く家族と人とを思ふものは亦た國家を深く思ふことを待べき人にあらずや左るを、万事に情濃く、他を思ふことの厚き女性にして、特り國家に對する時のみ冷淡なりと云はゞ、其冷淡となるの理由他にあつて存せずんばある可らず。吾黨之を思ふに、そは平素國家の事に注意せしめざるの結果なりと信ず。女は愛國心なかるべきものと、初めより定まりたるにはあらざるべし。

凡そ愛情は念ひを掛くるより生ず、念ひを掛けざる事柄は多感多情の人にとりても馬耳東風の如し。西行法師、岳飛の爲に歌うたはず、テニソン、岐阜名古屋の天災に詩情を動かさざるは、之を知らず之を思はざるによる。女性が國家の事に對する亦斯の如し。彼等もし平常國家の事に掛念せば、亦國家の事に憂ひ、之を愛思するの情切なるべし、而して其情の切なることは、彼の情け薄く腸冷やかなる男子の及ばざる所ろのもの多からんとす。女子元來愛國心なきにはあらざる也。女子をして國家の事に掛念せしむる法は何如に。もし女學校にある女學生の爲めと云はゞ、之をして新聞雜誌を讀ましむる事（もとより其種類は之を撰ばざる可らず）、社會上の出來事に對し評論を試みしむる事、社會學、經濟學などの學科の大躰を學ばしむる事などにあるべし。若し又、既に一家の夫人と爲りたる人の爲めと云はゞ、其良人たるもの追々世の出來事を之に談じ、試みに兎角の意見を提出せしめ、漸次に社會公共の事務の味ひを悟らしむるなど其の良法たるべし。總べて斯る手段の一つをも行なはずして而して婦女子が國家の事を知らざるを笑ひ、其知らず思はずして而して之を愛するの心自から熾んならざるを疎んずるものあり、か丶る人は播かざるに苗を求め、敎へざるに智識を所望するに均し。愚と云はずして何んぞ。むかし、土百姓、素町人が士らひに對するや、苟くも口を國家の事に挾さむ可らざりき。此時に當りて町人百姓に國家を愛するものあるとなかりしに、方今票を投じて其仲間の代議士を出し、之をして國家の政治料理に關與せしむるに至りては、百姓町人も亦た堂々たる愛國者となりぬ。何んぞ婦女子に於てのみ然らずと云ふことを得ん。

近頃ろ國家主義の敎育と云ふものあり、國家を愛するの氣象を引立たしむるを專一とす。此の敎育に於ては、婦女子にも亦た此の事を所望するは明白なり。既に之を所望す、何如なる手段を用ひて此の望みを達するやと云ふに頗ぶる奇しきことあり。か丶る所望を懷く敎育者にして、婦女子が國家の事に啄を容る丶を不可となし、その時事に注意するを不穩當の業と見做すものあり、驚ろくべき矛盾の見解にあらずや。此は苗の長ぜんことを願ひて、之に培かふことを禁ずるに均し。

孤兒之友

同志社病院に於ける石井十次君

の一篇は、續けて本號に記載せんとせしに、該通信の起草者たる山室軍兵氏より左の書翰來りたれば、こゝに掲載を見合すこととなりぬ。

(上略)「同志社病院に於る石井十次君」てふ通信差上候處此度石井君に面し且色々打解けて語り合ひ又自らも熟考仕候處何分實行的なる石井君は斯かる吹聽的のとはなし呉れなとの旨にも有之、自らも痛く此議嚴の士の心を痛めしめたるとを悔悟に堪えざる樣相成來申候故甚だ御氣の毒には存候へ共彼の文の續きは御掲載被成下間敷候樣切に奉冀上候如何にも今の社會は万事兎角詞をのみ先きに空しき名のみ早く傳りて實行何分にも之と伴はず伴はざるのみならず之に追付きもせず却りて相反する如き場合も屢々之あり石井君此間に立ちて毅然隱れたる處に全力を致さんとせらる、我等豈に叨に其志を害すべき筈ならんや何卒小弟が重々の不行屆御赦被下、石井君の誠心の爲、神の事業の爲彼稿を續くとを切に御見合の程御依賴申上候(下略)。

北海孤兒院は、左の如く從來の企圖を革新せられたり、希くは愛兒姉諸君の贊助あらんとを。

北海道孤兒院よりの來翰

拜啓春暖之候に相成候處御恩下に益御勇健被爲渡候段奉賀候次に生儀亦全恩下に無事消光罷在候間乍憚御放神被成下度候偖我北海孤兒院は愛兒姉等の翼贊により漸く其の緒に就き候段不堪肝銘候抑生等が此事業を企てしより玆に一年有餘常に著しき天父の誘導を感覺することのみありしが殊に今春弱孤兒を入院せしめんとするに至り生が信仰上特に著しき恩惠を蒙り前日と稍所見を異にするに至れり是に於て生熟々惟んみるに此事業たる固より献身的事業にして全く俗臭を脫せざれば成効を期し難し然るに若し小作人を入れ若干の價を拂て農場を開墾致候等の方法を取る時は多少世俗的會社的の嫌ありて之を献身的事業の本旨に問ふに較妙味の欠くる所あるを覺悟致候付ては開墾は全く孤兒の事業となし其の及ばざる所は犧牲献身の人來て之を助くべし價を求むるの人を入れずして一切を棄てゝ來る人と共にせんと決心致し遂に小作人開拓の方法を廢し岡山孤兒院及名古屋震災孤兒院と同盟し其年長兒を轉院せしめて開拓に從事せしむることゝし其他孤兒の入院に付ては其の年齡と員數に改正を加へ無數に入院を許すことゝし隨て一定の小作料を以て維持するの方法を改め專ら天父の冥助を祈り天下仁人の同情を仰がんとす然れども自助の精神は人の尤も重んずべきものと存候間熱心に農業牧畜養蠶等の實業に從事して之れが維持を補はんものと思考せり依て之を他の創立委員に謀りしに孰れも皆同意を表し一切の事業に任じ候間別紙の如く改正致候冀くは愛兒姉諸君今後益同情を垂れて生等の微衷を補翼贊助し給はんことを切望悃禱の至りに堪へず候頓首再拜

明治廿五年四月　北海孤兒院主任

林竹太郎

孤兒之友御中

九州孤兒院創立主旨書

父あるものは幸なり母あるものは福なり而かして衣食あるものは尙幸福なり左れど呼ぶに母なく乞ふに父なく扶助者なきものに至ては其の不幸果して如何ぞや一椀の殘糊僅かに餓腹を滿たし一片の弱衣漸く其の身の幾分を掩ふ是れ尙忍ふべきと爲す乎若し夫れ食ふに食なく衣るに衣なく住ふに家なく山野に寢れ路傍に倒るの時に當り是が救濟を怠かせにせば天父を知らざる此の憐むべきものは自暴自棄して强盜となり乞食となり終らんのみ玆に至ては人心あるもの誰れか忍びざらんと欲するも豈得べけんや嗟孤兒果して何の罪かある而して流離此の如し天眞の小兒果して何の邪心かある而して辛酸實に如此吾等自から量らず謹みて孤兒院を設立し孤兒救濟の任に當る願くは天下の義人之が爲めに一掬の愛淚を垂れよ

概則

一目的

無告の孤兒を救濟し其の父母に代りて養育するを目的とす

二入院

四歲以上十二歲以下とし男女に關せず幾名にても入院を許す

三維持

上天父の加護を仰ぎ下天下義人の喜捐金品を受け之を維持す

四教育

勞働的教育を施し基督教主義を以て一貫するを期す

二十五年四月　福岡縣三池郡三池

九州孤兒院

○義捐金領收報告

●四月一日より五月三十一日に至る

一金一圓	熊本	井上兎毛君
一金二十五錢	久留米	千磐武雄君
一金二十錢	同	岩谷定二郎君
一金十五錢	同	淺田六郎君
一金四十七錢五厘	柳川	青山。白水。本木君
一金三十錢	三池	福井テイ君
一金六十錢	同	村井競君
一金一圓八十二錢五厘	同	井上政君
一金四十錢	同	三池婦人會
一金一圓四十錢	同	荒木政夫君
一金六十錢	福岡	峰辰君
一金八十五錢四厘	三池	青年無名氏
一金一圓四十五錢	同	安息日學校集金
一金十五錢	同	今村靜君
一金十錢	同	桃嶋輝君
一金十錢	同	桐山節君

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

一金二圓七十錢　福岡　英和女學校生徒中
一金二圓　鹿兒嶋　野守峰君
一金六圓八十四錢　同　教會有志者
一金四十八錢　三池　猿渡安五郎君
一金一圓　　春野、阪口二君
一金二十五錢　三池　福井てい君
一金十錢　同　高木丹成君
一金五十錢　福岡　澁谷徹十君
一金十錢　三池　桐山せつ君
一金一圓八十五錢　同　青年無名氏
一金十錢　同　江崎新一君
一金十錢　久留米　今村靜君
一金四十一圓八十錢　福岡　音樂會にて集金
一金一圓二十錢　大分　大分メソデスト教會
一金二十錢　福岡　澁谷徹十君
一金二十錢　久留米　今村しづ君
一金二圓廿錢　長崎鎭西學館（有志者）
　　青木律彥氏取次
一金十錢　三池　桐山せつ君
一金五十錢　同　立石さも君

合計金七拾二圓〇七錢四厘

○義捐物品領收報告

一聖書六册　久留米　阪本辰之助君
一飯桶一個手桶一個　三池　村井競君
一シャツ一枚　同　山崎暢君
一單物二枚
一綿入三枚
一シャツ二枚　同　野守峰君
一シャツ一枚　同　小場よの君
一單物一枚　同　柳せい君
一シャツ一枚　佐賀　武上武次郎君
一シャツ二枚　鹿兒嶋　無名氏
一食臺一個　大牟田　無名氏
一釜一個　三池　江崎新一君
一傘一本　柳川　白水璞君
一單物一枚　三池　立石さも子君

現在孤兒五名

九洲孤兒院

北海孤兒院五月分報告

○寄附品

一二錢切手十五枚　函館　無名氏
一半紙二束　盛岡　長久タヾ
一女學雜誌每號　東京　女學雜誌社孤兒の友
一牧畜雜誌第八十號　仝　藤井米八郎
一野菜種々　紋鼈　村木孝英君
一莢豆一重　仝　星野氏
一闇路之燈十册　盛岡　美露教師
一千代の礎十册　仝　仝
一十誡之說明十册　仝　仝
一世を渉るたつきの風琴十册仝　仝
一エリサベッフライ小傳十册仝　仝
一聖書之奇事十册　仝　仝
一ゼシカ之祈十册　仝　仝
一喜之音合本五册　仝　仝
一下駄五足　紋鼈　小山田モート君
一鼻緒五筋　仝　田村レッ君

○寄附金

一金拾圓　米國ヨリ　クロスビー氏取次
一金五錢　室蘭　前田祐太郎
一金壹圓廿五錢　橫濱　中田新三郎
一金壹圓九十錢　米國　有志者
一金壹圓　盛岡　沖澤榮吉
一金五拾錢　仝　小泉伊兵衛
一金拾錢　仝　昆ナカ
一金貳拾錢　仝　伊藤達
一金壹圓　函館　瀧野鈂彌
一金廿錢　仝　同夫人
一金壹圓　紋鼈　青木三奎

○賣上金

一金壹圓五拾六錢　靴下

總計金拾八圓七拾六錢

支出金

總計金六拾六圓廿貳錢六厘　毛

內譯

一金拾壹圓三拾四錢六厘　白米及雜穀
一金壹圓拾錢壹厘　鹽味噌醬油砂糖茶
一金四拾三錢九厘　魚類
一金三拾錢四厘　野菜類
一金八拾七錢五厘　炭
一金三拾九錢　衣類
一金五拾六錢　郵便切手及ハガキ
一金廿七錢貳厘　筆墨紙類
一金四拾九錢　下駄類
一金五拾錢　家賃
一金貳圓七拾錢　家具及什器
一金拾七錢八厘　勝手用雜品
一金五拾七錢　藥料
一金九拾壹錢四厘　教育用具
一金貳圓五拾貳錢　農具
一金六圓三錢　種物類
一金拾五錢　地竹及萱
一金貳圓四拾八錢　肥料
一金四圓　養蠶具
一金拾六圓　再墾料
一金拾三錢　毛糸運賃
一金拾圓拾四錢　山羊二頭及運賃
一金四圓拾三錢七厘五毛　旅費

○現在員十五名

內

孤兒九名
預兒二名
農員四名

明治廿五年六月
　北海道有珠郡東紋鼈村
　百廿九番地

北海孤兒院

●仙臺孤兒園報告

○寄附金（六月廿四日迄の分）
一金拾六圓五拾錢　寄附者拾名
現在孤兒五名　内　男二名　女三名
他に六七名取調中の者あり
仙臺市東六番町拾貳番地

仙臺孤兒園

●孤兒の友取次義捐金第三回報告

金百四拾貳圓五拾錢　第二回寄附金合計　各孤兒院へ寄附
金貳圓　無名氏　曉星園へ寄附
金四圓　同　孤女學院へ寄附
金壹圓　同　同
金五拾錢　坂春江氏　同
金貳拾圓　無名氏　同
合計金百七拾圓也

●孤兒の友取次物品寄附第三回報告

取合百貳拾貳品　第二回寄附品合計　各孤兒へ寄附
衣類　無名氏　孤女學院へ寄附
衣類三拾九點　同　同
單物拾貳枚　同　同
合計百七拾點

●孤女學院の教所

同院の教所は豫て建築中なりしが此頃成功せり、其建坪は二拾七坪の木造家なり。猶又去月より同院へ寄附せられたる重なる義捐金は婦人レプタ會發起の演奏會收入の金高四拾五圓を寄附せられたり、亦某西洋人より金九拾八圓拾六錢と金貳拾五圓餘の寄附あり、亦無名氏より金貳拾圓を寄附せられたり

●大須賀亮一君の全快

多くの人の涙と祈の中に、病院に臥されし大須賀君、矢野姉等、何れも神恵の下に病癒へ、過日退院せられぬ、孤女學院の爲め欣賀の至りに堪へざるなり。

●小橋勝之助君

過般上京せられて我社内に寓居せられ、療養旁々都下の教勢を察し、且孤兒院の將來に關して深く思考を凝らされ、歴々諸有志の門を叩かる、身體稍や健かなるを待ちて、不日に北海道へ向ひ出發せられんとす、而して同君は歸りに再び東都に立寄らるといふ、孤兒の爲めに涙い、日本の爲に慮かる者、希くは同君の爲めに祈禱せられんことを。

女報

可愛子編

●天皇、皇后、兩陛下行幸啓　兩陛下には、去る四日後藤伯邸に、同九、十の二日鍋島邸に行啓あらせらる。

●皇太后陛下の御全癒　皇太后宮には去る六月下旬より御不例に渉らせ給ひ、爲めに華族女學校及び後藤、鍋嶋の兩邸へ行啓の儀も御見合せになりしが、昨今は御快癒に向はせられし由承る。

●皇太子殿下　には去る十四日午前十時宮城へ御參內聖上皇后兩陛下に御對顔の上同十一時頃御歸殿在らせられたりと。

●富美宮殿下の御旅行　皇女允子內親王、富美宮殿下には、御避暑のため、去る十五日午前六時新橋發車にて神奈川縣下箱根へ御旅行遊ばされたり。

●小松若宮殿下　は先日御新婚後沼津邊に御旅行の處過日箱根宮の下に御逗留中の皇女富美宮殿下を御見舞ひ申したり。

●兩殿下の出發　北白川成久王、同貞子女王の兩殿下は、去る十四日出發、神奈川縣下三浦郡地方へ旅行されたりと。

●九條公爵夫人の參內　九條公爵夫人には、過日參內皇后陛下へ拜謁、暑氣御伺を申上げたるよし。

●井上伯の溫泉行　同伯は同夫人幷に男勝之助氏夫婦と共に、箱根の溫泉に赴かれたり。

●原六郎氏夫人　は過日米國より、歸朝せらる。

●奥田玉女の名譽　去る九、十の兩日、鍋島邸に行幸啓ありて武術天覽の際、繊弱の身を以て大の薙刀を手輕く振翳し、天晴男子に打勝ちたる奥田タマ女の武技は、當日一等の出來なりしかば、皇后陛下には特に御感賞あらせられ、末廣一對を下賜はりたり、同女は深く御恩に感佩し居れりといふ。

●帝國女學校　今度日本橋區藥研堀町廿二番地に設立したる帝國女學校は、贊田剛橋、前川太郎氏等の創業に係るものにて、其目的は力めて時流の女子教育を避け、優美淑德なる日本婦人を養成するにある由、校長には金森通倫氏、教頭には小澤正太郎氏、內外の教員合して十數名、金森氏の夫人も亦教授の任に當らるゝといふ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●敍任　任女子高等師範學校教授兼大學助教授　三上三次
　六級俸下賜（但當分年俸金七百圓支給）女子高等師範學校教授　三上參次
　免兼官　高等師範學校教授兼女子高等師範學校教授　松岡太懇
　同　女子高等師範學校長　細川潤次郎

●王女會役員　同會（會長）は女子學院ミス、リート、（副會長）は青山英和女學校西嶋きよ子、（書記）は東洋英和學校若林りう子、（會計）は女子學院杉山まき子（記章委員）は海岸女學校遠藤よき子、（王女會記事編輯人）は橫濱山手百七十八番エクス女學校片山よしえ子なり。

●京橋區浸禮教會婦人聖書研究會　同會は毎金曜午後二時半より開き、ホワイト婦人の英語、宇田川ふじ孃の通譯にて專ら兩氏盡方せり、會する者平均七人あり。

●米國女優の渡來　米國の女優ミセス、アドフイン、エデイミスケーラン、ジヨージア、ケーケンの三人は、東洋漫遊の爲め此程本邦に渡來し、帝國ホテルに投宿せり。

●レース教場の財產差押へ　東京府士族三萬人の授產金を以て設立せしレース教場に就ては、豫て士族派と丸田派との紛爭中なりしが、愈々東京府士族諸氏は、代言人黑岩鐵之助、橋本好正の兩氏を以て、丸田正盛、井上多治見の二氏を相手取り、士族授產金六萬三千八百圓引渡の訴訟を、東京地方裁判所へ提起すると共に、レース教場の財產差押への爲め、代理人及び執達吏六人連にて、日吉町の同教場に赴き、即坐に差押へを執行し了りたりと。

●新幼稚園　文部省直轄の女子師範學校に附屬せる今の幼稚園には、幾んど上流社會の幼童のみ入門し居りて、遊戯の際にも園付の保姆（即ち教師）の外に幼童の家より付添ひ來る婦人も見張り居りて、恰も二人の保姆に依て教育さるゝ有樣なるのみならず、斯る幼童には多少必ず家庭の教育もあり、且つ授業料案外に高くして、迚も這般の幼稚園は全國に普及せしむべき幼稚園の模範となすに足らずして、實に斯る內情の幼稚園に貴重なる國貸を投ずる事甚だ不都合なりとて論ずる向もありたれども、折角今日迄に整理し來り、且つ女子師範學校に於て養成する保姆の實地練習に斯る幼童を取扱はしむるも亦便なるべしとて、遂に從來の幼稚園は依然存續して、高等なる幼稚園の見本となす事として、更に下流社會の幼童を集むる幼稚園を同師範學校內に新設し、暑中休み後即ち來る九月よりいよ〳〵開園する筈なりといふ。

●女子教育及び幼稚園制度　文部省にては小學校令に附從する實施策を布き、師範學校令を改正し、着々普通教育の計畫を定めたれば、今後は女子教育に關する制度、及び幼稚園の制度を定めんとの事にて、當局者は是非とも本年中に發布するの決心なりと云ふ。

●女子教育と女子師範學校　女子師範學校は婦人の教師を養成する處にして、先年女子教育熱流行せし時に當ては、各府縣とも自から女子部を其師範學校內に設けて、縣下の女子を教育するか、或は縣下より數名の女學生を撰んで文部直轄の女子高等師範學校に入校せしむる抔、夫々此の方面に向て女子の教育を奬勵したりしも、是等の女學生が定期の業を卒りたる後の經歷より考ふれば、隨分得失利弊相半することなしとも斷言し難し、素より現行の法令には、敢て明に是等女生徒の養成を府縣に强制するの文字なしと雖ども、規則の全體より推せば女子部を置かざるべからざるの意味なきにあらず、而して全國三府四十二縣中に就き、現に女子師範生徒を養成し、若くは養成せざる府縣を類別すれば左の如し、

女生徒を置かざる府縣
東京府　神奈川縣　兵庫縣　埼玉縣　群馬縣　茨城縣
奈良縣　三重縣　愛知縣　滋賀縣　岐阜縣　岩手縣
青森縣　和歌山縣　大分縣　熊本縣　宮崎縣
（以上一府十六縣）

女生徒を置く府縣
京都府　大坂府　長崎縣　新潟縣　千葉縣　栃木縣
靜岡縣　山梨縣　長野縣　宮城縣　福嶋縣　山形縣
秋田縣　福井縣　石川縣　富山縣　鳥取縣　嶋根縣
岡山縣　廣嶋縣　山口縣　德島縣　香川縣　愛媛縣
高知縣　福岡縣　佐賀縣　鹿兒嶋縣
（以上二府二十六縣）

右の如く現在に於て女生徒を置くもの二府二十六縣、置かざるもの一府十六縣なれども、今度發布したる文部省令第九號（尋常師範學校生徒の定員）第三條には「土地の情況に依り女生徒を置かざることを得」と明に規定しあるからには、來年度以後地方稅を以て女生徒を養成するの府縣追々減少すべしといふ、そも我邦に於ける女子師範生徒の卒業後に於ける一身の進退は、歐米の實況と自から異なる處ありと云ふは、社界の事情自から然らしむるものにして、實に我邦に在ては女子婚嫁の期彼より早ければ、遲くも二十四五歲に至る其間に大抵婚嫁の期を終ると雖ども、既に夫と定まりたる後迄も相變らず教職に從事して、功績其以前に倍蓰する事は到底望み得べからず、現に獨逸の如きは女教師にして夫を持てば教員たることを能はざるの規則さへあり、暫らく別問題として考ふるも我邦に於ける女子師範生なるものは國稅若くは地方稅を以て養成せしものなれば、一定の年期間は義務として教職に從事せざるべからず、而して此の奉職年期の事を嚴格にすれば、多少婚嫁の期を妨ぐることなしとせず、左れば其筋にても尋常師範學校中に置くべき女生徒は、女教師養成の一途にのみ向て教育せず、一半は良妻賢母たるべき婦人を造り出さんことをも目的とせざるべからずとて、扨は修身教授の方針抔をも其心して規定し、又其入學の年齡も十七年以上二十年未滿の現制を十五年以上二十年未滿とし、在學年限も四年なりしを減じて三年となしたれば、卒業後の服務年限の如きも最早嚴格に取締らざる精神なるより、遂に土地の情況に依り府縣會の意見次第に任せ深く復た女子部設置の事を强ひざる事に決したるもの、由、而して既に女子師範學校生徒の養成を以て女教師製造兼女子教育奬勵の一法として、地方議會に一任するより、今後其筋にては小學以上に於ける女子教育の

制度取調に取掛る手筈なるやに聞く。（時事新報）。

●讀賣新聞　は七月十日、十二日の紙上に於て、獨逸在留の入澤達吉氏が「女醫に就て」さ題せる一文を掲載せり、中に曰く「抑も上古より女醫のありしは歴史上に散見する所、大聖ソクラテスの母フエナレーテは産科醫術を能くせりさ云へり云々、其他佛、露、英、獨等の各國に於ける女醫の事を記せり。

●憐むべし　淺草某醫の妻女貞にして孝也、一日實家より來輸あり曰金若干を貸せ不然は去て富家に改嫁せよ、女憂悶遂に又に伏す、憐むべし。

●風俗壞亂　坊間ゐもりの黒燒を鬻く、其功能如何、盖し言ふべからざる也、果して然らば風俗を亂す非尠少、官須く一査すべし。（東京日々新聞）。

●フエリス女學校の卒業生左の如し

今井あさ子　神奈川　露木もさ子　同　島田たか子　同
小野里常子　群馬　川村せん子　愛知　渡邊こう子　東京
山田もさ子　群馬　高部もさ子　神奈川　篠崎かめ子　東京
小林しげ子　神奈川　富田ゆき子　群馬（以上本科卒業生）
松田みち子　京都（高等科卒業）

●米澤英和女學校卒業式及び閉校式　は六月二十九日午後二時より松岬館にて擧行せられ、松平子爵、大瀧市長、學校長を始め來賓三百名ありて中々盛會を極めたり、其執行順序は唱歌を以て始め、文章祝詞　平林さば子、文章女子の本分　登坂こさ子、英語暗誦　岡田しう子、奏樂、英詩朗讀　長尾はつ子、文章大和女子　香坂きよ子、英語暗誦　登坂こさ子、演說梅の花　長尾はつ子、七變現、英語暗誦　香坂きよ子、文章教師の恩に謝す　岡田しう子、卒業生唱歌、卒業生に對せる演述　校長、卒業證書授與、躰操、

（卒業生）岡田しう子、長尾はつ子、登坂こさ子、香坂きよ子

●宮城女學校修業式　は七月八日午後七時より同校講堂にて執行せり。

●東京女學館の卒業式　虎ノ門内東京女學館に於ては、去る九日午後三時より第二回證書授與式を執行したるが、今回の卒業生は十二名にて、當日評議員長土方久元氏欠席の爲め、法學博士增嶋六一郞氏代りて卒業證書を授與し、それより土方子爵の祝文代讀、及び卒業生總代坂井澄子氏の答辭、澁澤榮一氏、櫻井理學博士等の演說あり、式終りて招待員一同を別室に請じて茶菓の饗應を爲したりさいふ。

●東京音樂學校卒業證書授與式　は去る九日午後三時より第五回卒業證書授與式を擧行せり、來賓は外國公使、兩院議員、文部省高等官、直轄學校長及び教員、朝野の貴顯貴婦人等無慮千餘名、專修部卒業生左の如し、

橋いさえ　中嶋梅稚　成川熊雄　石坂さし子　中村てる子

●角筈女子獨立學校　同校は府下貴婦人の贊成を得て、加藤敬子の設立せられたるものにして、女子に手藝を教ふるの傍ら普通の學問を授くるを以て目的さなし目下生徒の數凡そ四拾名ありて、去る十二日午後一時閉校式を執行せられたり、來賓には土方子の令孃、加藤勝彌、服部綾雄、横濱のベラ氏等無慮數十名、中々の盛會にてありし、同校生徒諸子の朗讀せられたる英和文章幷に英語唱歌等上々の出來にて非常の喝采を博し、又別室に陳列したる生徒の手工品は大に來會者の注意を引きたり、同校が本季間に賣上げたる物品の代價は殆んど六百圓に登りしさ云ふ。

●普連土女學校卒業式　は去る十四日午後四時より第一回卒業式を執行せり、卒業生左の如し。

（和漢學部）富井まつ子、安川たみ子（英學部）笠井しゆ子、富井まつ子、安川たみ子（數學簿記學部）富井まつ子

●華族女學校卒業證書授與式　去る十八日は華族女學校に於て卒業證書授與式執行の當日に付謹て仰出されし如く　皇后陛下には午前九時御臨校遊ばされぬ、式場にては生徒全員起立して、左の　皇后陛下の御製を演奏せり、

皇后陛下御製金剛石（唱歌）

金剛石（ダイヤモンド）もみかゝずは珠のひかりはそはざらむ人も學びて後にこそまことの德はあらはるれ時計の針のたえまなくめぐるがごさく時のまの日かげ惜みてはげみなばいかなるわざかならざらむ

皇后陛下御製水は器（唱歌）

水はうつはにしたがひてそのさまゝになりぬなり人はまじはる友によりよきにあしきにうつるなりおのれにまさるよき友をえらびもさめてもろさもにこゝろの駒にむちうちてまなびの道にすゝめかし

次に佐野貞、有村濱、米津鉄平、佐藥諸（大和なでしこ）箏曲合奏、九條範子の洋琴（ソナータ）の曲等ありたり（中學全科卒業生）は、大島ゆき子、澤田ふき子、町田うめ子、竹添すき子　吉田せつ子の五名なり、當日來賓の重なる方々は、小松若宮、同妃、北白川宮妃各殿下、土方宮内大臣、同夫人、鍋島侯爵、同夫人、松方伯爵夫人、杉皇太后宮大夫、同夫人、細川侯爵、細川女子高等師範學校長、色川文部省參事官、長崎式部官等四十餘名なりしさ。

●明治女學校第五回卒業式　は去る十九日午後七時半より同校々堂に於て執行せらる、巖本氏の歡迎の辭あり、普通科卒業生原みれ子、師範科卒業生吉岡さし子高等科卒業生廣瀨つれ子三氏の文章朗讀あり、其他唱歌、風琴、琴等ありて、後卒業證書の授與式ありたり、教頭巖本氏の勸告、生徒總代松井まん子の祝詞、卒業生總代榊なつ子の答詞、何れも人をして感ぜしめたり、松井、佐藤、村瀨、山口、藤嶋、五女史の武道演習は、日頃熟錬の功あらはれて、柔術、薙刀共に頗る見事なりき滿場靜然たる中、たゞ掛聲さ投げらるゝ音さを聞くは柔術の時なり、衆人寵々たる中、一進一退、戞々相打ち、變化多端なるは薙刀術の時なり、此一時崇高の氣をして堂に滿たしめたる、是れ武の德にあらずや、餘興の薩摩琵琶は愉快の中に正行の昔を忍ばしめぬ、當夜は來賓甚だ多く、外に立ちて眺めし人も亦多かりし、卒業生姓名は左の如し、

高等科

(一) 廣瀬 恒子 (二) 竹内 伴子 (三) 榊 夏子

普通科

(十九) 久保 とみ子 (二十) 宮島 夏子 (二十一) 下瀬 やす子
(二十二) 佐藤 すけ子 二十三 村瀬 つる子 (二十四) 中村 ひさ子
(二十五) 日高 みつ子 (二十六) 穴山 まつ子 二十七 四條 かれ子
(二十八) 佐伯 佐依子 (二十九) 矢野 友代子 (三十 平井三千代子
(三十一) 兒玉 むら子 (三十二) 川村 光子 (三十三) 松澤 はる子
(三十四) 勝村 あさ子 (三十五) 島中 艮子 (三十六) 小池 とめ子
(三十七) 森 とし子 (三十八) 伏見 きみ子 (三十九) 藤戸 くす子
(四十) 武藤 まる子 (四十一) 松井 節彌子 (四十二) 平野 てふ子
(四十三) 原 みれ子 (四十四) 吉川 さと子 (四十五) 赤井 生子

師範科

(一) 吉岡 とし子 (二) 増田 たき子 (三) 土屋 ため子

師範科三年修業生

(一 宮嶋 なつ子 (二) 日高 みつ子 (三) 川村 みつ子

撰課

(十) 教育、社會、經濟、和、漢、數、家政、習字、裁縫、 白洲 八重子
(十一) 普通課撰科 英學、地文、歷史、圖畫、唱歌、裁縫、女禮、 磯田 信子
(十二) 教育、修身、社會、和、漢、唱歌、 島 丁子

武道科

(中段甲) 松井 まん子 (同) 佐藤 すけ子 (中段乙) 村瀬 つる子
(同) 竹内 うめ子 (初段甲) 宮嶋 なつ子 (同) 廣瀬 つれ子
(初段甲) 榊 なつ子 (初段乙) 鈴木 げん子 (同) 山口 よし子
(同) 藤嶋 ゆき子 (同) 中山 みつ子

學

眞組正許 日高 みつ子 穴山 まつ子 山口 よし子 染谷 いれ子

速記

(十) 松岡 もと子 (十一) 中山 みつ子 (十二) 櫻井 しげ子
(十三) 紀内 すへ子 (十四) 菅沼 はな子 (十五) 藤戸 くす子
(十六) 高橋 いと子

●洋人の和裝　此頃西洋人が、日光及び箱根、伊香保溫泉等へ避暑の爲め赴くに當り、十三四歲以下の女子には、縮み白地の大縞かすり又は阿波縮みの衣類に、各縮緬類のしごき帶を用ふる者ありて、洋人の和裝は昨今の一流行なりと云ふ。

●横濱警察密賣の取締を嚴にす　曖昧なる幾多の酒店、怪むべき女子を置き、內外の人々、殊に外國人を釣り、以て不正の錢を貪る、横濱市內部の腐敗は名狀すべからざるなり、同胞の耻、國家の辱、之に過るものあらんや、此ごろ横濱の警察は其取締を嚴にし、或は朝夕其店頭に立番し、或は入り込む客を誰可し、或は不時に取調べて醜行者を引致するなど、矯正尤もつとむ、矯風者は深く之を喜び居れり。

●女學校に絹帛を禁ぜんとす　江州彦根町立女學校は、近來華美の風流行し、日に月に增長する傾きあるより、心あるものは竊かに慨歎し居れる由なるが、此程同町學務委員會に於てこれが矯正策を提出せしものあり、終に全會一致にて、自今女生徒登校の際には必ず綿服を着し、絹帛は一切之れを用ゐるを禁ずることを議決せし由。

●其情可憐　大坂北野村某の妻美人を以て聞ゆ、無殘や一朝天然痘に罹り、西施忽ち無鹽に變ず、心緒懊惱遂に自刃して倒る、其痴可笑其情可憐。(東京日々新聞)。

●孝女　山形縣山形市飯沼新町に年久しく棲む河島友七と云ふ者は、股引甲掛などの仕立を業とするものなるが、二年越の長病にて多くもあらぬ家財道具を殘りなく賣盡し、モハヤ薪の料に充つべきものとてはあらざるに、感心なるは長女とし(十八歲)なり、今春以來夜な〳〵近邊の川筋にゆき十二時頃まで下ゲ針をなし、翌朝未明に引上げ、獲たる魚をば賣歩き、其外父の看護や人の仕事母のおかれと共に疲れも知らず働き、四人の弟妹へも湯なり粥なり分ち與へ、花の盛りの身を襤の巾に埋めて、只一筋に孝と悌とに心を竭すは、澆季の世は珍らしとて近處合壁の人々も大に稱し居れりと云ふ。(宗教)。

●娼妓廓外に宿泊するの風說　貸坐敷と娼妓は人生最下等の賤業なるのみならず、風俗を淫靡に導き前途多望の子弟をして一身を誤らしむるものなるを以て、其筋に於ても尚も此弊害を妨阻するに務められ、即ち繁華熱鬧往來頻繁の場所を避けしめ、限るに一定の區域を以てし、且つ娼妓をして濫りに廓外に出づることを能はざらしむるが如き皆な此目的を達せんが爲めに外ならず、然るに近來當地の廓風較々亂れ、娼妓にして往々廓を脫して外宿せし者さへ度々ありたりと、是等は風儀を紊るの最も甚だしきことなれば、其向に於ても少しく注意あり度きものなりと、旭水生なる人より投書ありたり。(秋田日々新聞)。

●山口縣下の女學　昨年の調査によるに◎師範學校女子部は、需用上の關係よりして、入學生徒の定員五十名を三十名に改めたり、當時就學の生徒二十五名、卒業生は二十三名ありたり◎山口高等女學校は、明治二十年有志者の設立する所にして、其教科程度は、尋常中學校の學科程度に均しく、唯女子に適切なる組織とせるの別あるのみ、本科の外別に手藝專修科を置く、本科は五ヶ年、手藝專修科は一個年の修業とす其教員は男十八人、女六人、生徒は本科四十九人、手藝專修科五十一人にして、本年の卒業生は三十九人とす、又生徒の手藝を奬勵し、併せて公衆の思想を喚起せんが爲め、年々一回教育品展覽會を開き、書畫、作文、裁縫、縫取、編物、組物等を陳列して衆庶の縱覽に供せしに世上の注意を喚起し、女子教育の進步を促がしたると尠少ならずといふ。

●卯之町婦人共勵會　愛媛縣東宇和郡宇和町の同會は、再去る七日午後三時より大字卯之町光教寺に於て開會せり、會するもの三十餘名、席上大塚穀太郎、白江成孝兩氏の衛生及び經濟上に付ての演說、其の他二三婦人の育兒法に關する談話等ありて閉會せしは午後六時なりき。

●長濱婦人會　同縣喜多郡長濱町の同會は去る八日夜同地福成寺に於て開會せり、同會は是れまで同地の名望家幹事となり居りしが、今回之れを改めて總て女子のみにて万事を周旋することとし、且つ毎月一回の例會を來る八月より二回に增加し、猶ほ次會よりは唱歌を加ふることとなしたりといふ。

●長崎出島教會　は重に鎭西學館活水女學校なり組織せられ、會友百四十八人、受洗者三十八人、洗禮志願者四十五人あり、六月十九日には二十二人の受洗者ありたり、今は暑中休暇にて九州の遠近に各處する者少なからず、活水女學校より市中各所に日曜學校を開き、毎に二百以上の生徒を教授す。

●咄々怪聞　豐前中津に於ては妓樓を新設せんとの計畫ありと、信乎、信也、嗚呼中津よ、福澤翁を出せし中津よ、爾は更に妓樓を産出せんとするか、吾人思ふて浩歎に堪へず、嗚呼ソドムは十人の義人なくして滅亡せり、中津の地義者なきか、何ぞ憤起して此毒擧に反對せざる。

●地方の新聞紙　女學に關し、廢娼、廢藝妓等に關し、其社說に於て、其寄書に於て、滔々論辨するもの翕々多きが如し、嗚呼國民の良心は、實に高尙、淸潔、健全の道德を呼び求むるなり。

●三重縣通信　　三重通信員

◎溫故堂産科私學校の學期短縮　三重縣津市立町なる溫故堂産科學校に於ては、是れまで學期は一ヶ年三十二週日にして、一週十二時間以上の規定なりしも、産婆生の如きは中等以下に多ければ、學期中生活に差支ふるため、目的を達せずして退校するものあるにより、今度授業日數を六ヶ月に短縮し、之を十八週とし即ち一週二十八時間として卒業せしむることとなす由。

◎卒業式と婦人衛生會　溫故堂産科學校に於ては、去月二十三日午后産婆生の卒業免狀授與式を行へり、卒業生徒は三名なりき、また同校婦人衛生會は、毎月第三日曜日に開會することなるが、目下産婆の外通常會員已に五十名以上に及びたるを以て、さる四日同校にて例會を開きたり、當日は婦人に限り何人にても傍聽をゆるせり。

◎養正高等小學校女生卒業者の効果　同校女卒業生徒は三十五名にして、內七名は私立女學校を卒業し、八名は在學中、三名は教育に從事し、二十一名は家事に從ひ、一名は死去せしとぞ。

◎養正學舍卒業免狀授與式　同校舍に於ては、本月十三日午后四時、卒業免狀授與式を擧行せり、來賓には酒飯を生徒には茶菓を饗せり、而して當日席上にて寄宿生數名をして酒間を周旋せしめしは實に言語同斷といふべし、因にいふ同學舍は目下生徒五十余名、他府縣より寄宿するもの七名ありといふ、當日卒業免狀を授與されたる人々は、

（全科卒業）三塚　たつ子　芝原　たづ子（第四期）柏原　はる子外一名
（第三期）　一名（第二期）　七名（第一期）　九名

◎産婆講習所の設置　この程三重朝明郡に於ては、四日市町に産婆講習所を設置して目下生徒募集中。

●宮城縣通信　　仙臺通信員

◎音樂院起らんとす　現時音樂の大家と稱せらるゝ仙臺出身の四竈調治氏の斯道に熱心なるとは世人の普く知る所なるが、氏は從來著書に雜誌に益々樂事の改良すべきを唱へ、此度月琴、三味線、ヴアイオリン、箏、琵琶等の各樂器を折衷せる一種の樂器を發明し、之を仙花琴と名づけ、尙之を應用して尤も簡便の日本音樂隊を組織し、偏く集會の招きに應じて一方には音樂の妙を知らしめ、一方には從來の野卑なる感情を去らしめんとの目的にて、大に丹精を凝らしつゝあり、又獎勵の爲に一の音樂院設立の計畫をなし、目下貴顯の贊成を求め居ると云ふ。

◎卒業式　仙臺市柳町通身章私塾にては第十二回卒業式を執行せしたり（全科卒業八名在學生五十名）來賓には本部書記官、遠藤市長、宮城女學校幹事佐伯氏、仝エスプールボー氏、及市內豪商紳士數十名。

◎女子職業學校長　仙臺市伊藤熔齊氏は、女子職業學校約契招聘の爲上京せしが、元女子師範學校教諭たりし池田谷蘭女史（群馬縣人）を校長に委囑せられたりと。

◎十字架の額小學校講堂に揭げらる　仙臺市立町寫眞師遠藤陸朗氏は往年支倉六左衛門氏（藩主政宗公の派遣士）羅馬より持歸りたる十字架及各種の古物十五種撮影したるを、生徒の參考品として市內兆町小學校へ寄附せるより、仝校長眞柄氏は之を額面に調製し、講堂內に揭げられたり。

◎仙台孤兒園　同園は目下八名の孤兒を有し仁人義士の涙を寄する者少からずと云、生先月松田氏に面す、同氏曰く創立以來未だ安眠せしとなし、蓋し兒子等襲蚊漏便を恐ると、又曰く一日他出し宿泊す、珍膳羞饌殆ど山海の美味を列す、去れど食するを甘せず、食するも甘からずと、噫同氏の熱愛苦心想ふべし。

●越前通信　　秋山貞二

◎女鑑　世に相應の生計を爲しながら其子弟の教育を怠るもの多きに引換へ、淸貧にして糟糠にだも飽かざる果敢なき渡世の中より、只管其子の教育に心を用ゆる女丈夫こそ現はれたれ、福井縣下今立郡新横江村大字下新庄石本ちよ子といへるは素と筑前の博多の産なりしが、十數年前の今の石本家へ嫁し夫婦睦じく暮し長男勇と嬰兒一人とを設けたなり、然るに今より四年前即ち勇が六歲になりし年、夫は風の心地すとて打ち臥せしまゝ、返らぬ旅路に赴きしにぞ、ちか子の歎きは比するに物なく、此上はたゞ亡夫の遺兒を養育して一人前の人間に爲すこそ千部

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

万部の續經にも優る追善供養なれと思ひ返し涙ながらに野邊の送りを濟ませしが、左なきだに貧苦のちよ子は忽ち究鬼に祟られて、亡夫の遺物と頼む庇に雨漏りて濡椽拭ふ雜巾の、乾く間もなき涙の中にも、ちよ子は屹と思案して勇を小學校に入學せしめ、己れが衣類、櫛笄など賣拂ひて筆墨、石盤など買求め學資に充て、己れは蓬々亂れし髮さへも梳づらで嬰兒を脊負ひつゝ、縫針洗濯に些少の手間賃を得て、細き煙を立て來りしが、勇も勉强怠らす、今年は尋常科四年生となりしが、斯く上達する時は書籍も高價となり、授業料も嵩み來り、迚も女の手一つにては耐へがたく、最早賣拂ふべき物もなかりしゆへ、一時は廢學せんと思ひたりしも、今日廢學しては佛造て魂入れずとや云はん、假令三飯を二飯に減ずるも成學さすべしと决心し、或日ちよ子は蓬々ふり亂せし髮を奇麗に洗ひて其黑髮を惜氣もなくフツと根元より切り拂ひ、幵を販ぎて學資に充てしとぞ、昔は孟母機を絕ちて其子を勵す、それと此れとは事かわれど、其心は即ち一にして、亦得がたき佳話といふべし、家に餘財ありて、子弟の敎育を輕忽に附するもの、豈ちよ子に對して耻づることなきか、斯る人達の反省を望むがため斯くは通信しぬ。

●李鴻章氏令夫人の薨去　李鴻章氏の令夫人は、本月三日正午薨去せられ、其葬式は四日に執行せられし由

●幼女の誘拐　近來上海地方及び支那內地にては、女兒の踪跡を失ひ何れへか行きて歸らざるもの甚だ多く、每日の新紙へ記載せざることなし、元來支那にては人間を取扱ふこと全く物品と異なることなき傾きあり、幼女を遊步へ携ひ行きたる儘に留め置き、數日後之れを賣る由にて、買主は之を養育し、成長の後は妾となすあり、家婢となすあり、或は藝妓へ賣るありて、全く物品賣買と同一の有樣なりと云ふ、廣東地方は日本婦人の藝妓非常に多き由なるが、是れは全く日本へ年久しく在留の支那人が、日本人の困難者なる幼女を買ひ求め、之を賣りしものなりと曰ふ、實に本邦人の尤も注意す可きとなり、先年山東省に饑饉のありし時は、幼女の價は十六七錢位にて購賣するを得しと曰ふ、亦た以て全般の有樣を知る可きなり。

●名家の曾孫　北米に有名なるトーマス、ゼツフエルソン氏の曾孫女にニコラス、ランドルフと云へるありて、久しく私立學校を監督し居たりしが、先日バルチモーアに於て長逝せり。(日本)。

●婦人の法學生　從來加那太オンテリオ洲に於ては、婦人の大學に入り、文科醫科を修むるとを許し、現に卒業後、新聞記者、著述家となり、又制規の試驗を經て開業醫となれる者數多あれど、獨り代言社會には婦人を入れざるを以て、女學生中未だ法律學を修むる者なかりしが、先頃開會せし洲會に、婦人をして辨護人たらしむべしとの議案を提出するものありて、種々討議の末之を通過したり、されば今より五六年の後には、旣にポンチツトを載ける花の如き辨護婦を見るに至るべしとぞ。

七月廿一日　女學生廿六號　發兌せり

女學生

社說　裏面の楠公。教育家の眞趣味を元弘の昔に忍ぶ……天知子

漫筆
さら〳〵記……是色子
師の君を送り侍りし夕……大坂浪華女學校岸野やなぎ
夢路のかごと……明治女學校　すゞ女史

詩歌の卷
わが園

鹿野山

文欄
涙……女子學院……秋野すゝき、
卒業の謝辭……高田女學校……赤井さら子、
勉强と健康……梅香崎女學校……財部女史、
靜の傳を讀む……高田女學校……小杉しづ子、

博物の園
百合の葉。くものふるまひ。……

昔ばなし
其人は詩人なり。シエクスピア鹿を盜む。
白石先生。後乘の母が一錢文の寄進。

學びの栞
和漢朗詠集一部講義……

雅樂多
秘藏箱。考物。……

時の感
女學生諸子を送る。店頭の書籍。畫伯芳年。避暑。好風潮

新報
文界消息。近刊雜書。……

一册價四錢郵稅五厘……女學雜誌社

一早稻田文學ハ毎月二回十五日三十日ヲ以テ發行致候事

一早稻田文學購讀者ハ代價並ニ郵税共必ス前金ニ御拂込相成度候事

一早稻田文學代價ハ郵券代用御斷リ申候事

一早稻田文學代價御拂込ノ節郵便爲替ナレハ牛込郵便局ニテ受取ルヘキ樣御取組相成度候事

一早稻田文學代價御拂込ノ節ハ爲替通運ニカヽハラス必ス同時ニ其旨御通知相成度候事

但シ早稻田文學何號ヨリ何冊代ト御書添ヲ乞フ

一早稻田文學代價御拂込ノ節別ニ受領證ヲ不差出候間雜誌ノ御落掌ヲ以テ前金確收ノ事ト御承知相成度候事

一早稻田文學前金相切候節ハ朱印丸形ノ章ヲ封紙ニ押捺シ御通知可致候事

早稻田文學定價

一壹部	金九錢	郵税	二錢
一六部	金五拾壹錢	仝	十二錢
一拾二部	金九拾六錢	仝	二十四錢
一廿四部	金壹圓八拾錢	仝	四十八錢

仝　廣告料

一五號活字二十三字詰何行ニテモ一行ニ付金七錢

但シ學校書籍新聞雜誌ノ廣告ニ限ル

早稻田文學第拾九號目次

釋義
詩經　信夫恕軒氏
万葉集　畠山健氏

講述
論理學　大西祝氏
徳川文學　關根正直氏

評註
丹波與作　饗庭篁村氏

雜録
梨園のおちば　鶴田喜一郎氏
謠曲と文學　大和田建樹氏

時文評論
●田口卯吉氏の史談●旗野士良氏が音韻學の由來●美術界の紛紜●勸進帳事件●飛花片々●新刊●近刊雜誌

附録
八犬傳諸評答集　饗庭篁村氏

東京早稻田
東京專門學校

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學講義

は都合によりて本號に掲載すると能はず、次回の赤表雜誌に二回分をまとめて出すべし、此旨讀者に謹告す。

女學生夏期號外豫告

炎暑の折柄同盟各女學校の諸姉妹幸に恙なきや否や茲に硯を洗て半年の筆を納め或はなつかしき故山に向ひ或は明媚の山水に遊ばる、我社員も亦都を出でゝ或は村落の孤屋に書を友とし或は深山の古寺に幽玄の妙を探ぐるあり、而して來八月は例に依て休刊すべきなれど我社が諸子を想ふの情は之にして止むべきにあらず即ち特に夏期號外を發兌して遙かに清風緑陰のもとある諸子の机邊にまいらせんとす、今社員が京を發するに先ち編輯机上にのこせし題目實に左の如し。

一休禪師　天知子
蘇東坡　禿木子
望夫石
英雄　山月子

其價値の如き必ずしも云はず、唯愛讀諸子が淸評をまたんのみ。但し價は普通本誌と同じ。

明治廿五年七月　女學生編輯部

巖本善治編

吾黨之女子教育

小形二百十七ページ
定價郵便共金拾錢

「吾黨の女子教育」成る。巖本善治君の演述又は起草に係るものを編せしものにして、本校教育の精神、期圖、大率ね之に同じく、現今實施する所ろ亦之に異なるとなれば、此書亦用ひて「吾校の女子教育」を代言するものと謂つべし。故に、君と計り、吾校之を版にして、世の同志に示すとす。

全篇十五章

明治學校生徒に告ぐ……一
目下の女子教育法……一
何をか中正の旨義と云ふ……三十
女子教育に關する幾多の謬見……三十
女學及女子教育……五十四
母妻論……六十四
女學に反對する者の言論……八十四
日本女學讀本の編纂……九十二
女禮と躰操……百
上躰操……百
下女禮……百五
女學校の裁縫科……百十二
塾舍に三の法あり……百二十二
武道の辨……百二十七
老母に代つて女學生へ苦情……百五十
細君内助の辨……百五十九
當今女子教育者の胸臆……百九十七
女學普及の經論……二百〇七

發兌元　明治女學校

發賣元　東京麹町區下六番町六番地　女學雜誌社

九州夏期學校廣告

垂玉ハ熊本ノ東九里餘阿蘇山ノ西腹ニアリ山光水明清麗緑野遠ク亘リ舞雩ノ高興遠ク世塵ヲ隔ツ今般地ヲ茲ニトシ**九州夏期學校**ヲ開設セントス今ヤ百般ノ準備畧ボ整頓セリ來會ノ榮ヲ賜フノ講師諸君ハ各自特得ノ**宗教文學哲學教育**等各學科分任講述セラル、コヲ承諾セラレタリ我敬愛スル所ノ士女諸君ヨ佳境幾モナク好期得難シ仰キ希クハ奮テ來校シ玄妙ナル眞理ヲ攻修シ併セテ身躰ノ健康ト精神ノ修養ヲ此清浄閑雅ナル地ニ於テ存養シ玉ハンコヲ

◎開校時日　來八月三日ヨリ十日間●場所　肥後阿蘇郡長陽村垂玉温泉場山口廣記方●滯在費一日金七錢●入學申込　熊本市水道町一丁目四十八番地古閑武平氏●本校ハ婦人來者ノ為メニ設ク●本校ハ時々運動會ヲ催ス

本校講師（イロハ順）

大儀見元一郎　藏原惟郭
栗村左衛八　木村七十郎
シドニー、ギユリーキ
大塚義信　内村鑑三
大橋信義　小崎弘道
佐久間信恭　宮川經輝
瀬川淺

九州夏期學校々長　**藏原惟郭**

九州夏期學校委員

兄姉が高潔清浄なる生活を取り正當なる業務を營むの一助として各自の便宜を成す一書を編制せんとす、同意の教會學校教社及び基督教主義慈善傳愛の諸結社は其地位名稱主義綱目また個人は住所職業姓名を詳細に記載し來る八月三十一日限り小生迄御通知被下度候也、御通知の節は左の如く願上候

第一號表
府縣市郡區町村番地
宗派別又は附屬宗派
別主義云々
教會名社名又は校名

第二號表
府縣市郡區町村番地
職業
姓名
（注意官吏教員役員等は職業欄内に其官省學校社名の記入を望む）

日本全國の諸教會は公會に於て報告通知を望む

横濱市不老町美以美教會内
天田儀八

護教

三ヶ月三十一錢半ヶ年五十八錢一ヶ年一圓十錢外に地方は郵税一部につき五厘

七月九日發兌より新たに

王女會記事（キングスダウタア）

を掲げ同會員の文章極めて家庭に益あるものを掲ぐその他美以教會年會記事最期學校記事等を逐號掲載すべし

東京新ばし竹川町九番地
護教社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

毛のはへる香油

一名ふけしらず **美人かつら**

小瓶 金十錢
中瓶 金廿錢
大瓶 金卅錢

イヨー奇妙〳〵コンナ藥罐でサヘ毛がはへるから抜毛や薄毛抔は直に澤山毛がはへるに違ひナイ

此美人かづらは極々淸淨なる植物油をうすめたるものに髮をこやし毛をはやす効能藥を加へたるものにして男女常に髮化粧に用ゆれば髮をこやし髮の發育を盛んにし髮の抜け落てはげる事なくしらが赤毛となる事なし又髮のうすきを厚くしほそきを太くしのぼせなどのうれいなくふけやできものなどを生ずる事なし又産前産後などに髮の抜け始めしときは少しも早く塗用すべし抜け毛を止め毛あしを速くする事妙也又既に抜け落たるあとなつほしできものやけどのあとなどに塗り附ればおのづからいつとなく毛のはへると眞實也

御遠方より御注文の節は郵便爲換又は郵便切手代用にて宜敷猶水物に付通運便にて御送可申候

發賣元つやふきん本舗 東京銀坐壹丁目（電話四百七十二番）

佐々木玄兵衛

日本第一等

おしろいいらず化粧用

小瓶十錢
大瓶廿錢

白妙は凖化粧の料として つやある美しき白色をあらはし白粉をぬり附たるがごとき氣味少しもなし

白妙は化粧下に用ゐて白粉の附き方よくむらにならず又あせをかきてもはげることなし

白妙を用ゆればいかにあれ性の人にてもあれることなくにきび○あせも○はたけ○すりむき○ひゞあかぎれ○しもやけなど直ちに治すべし

白妙は人躰のはだをやわらかにしてつやをよくし眞にゐんびなるはだ合となし色黒き人もしぜんに白色の美人となるべし

白妙は少しの水にてとかし又は其まゝにて用ゆるもよし

白妙はもちまへの香氣によりてもろ〳〵の不淨を淸むべし

白妙は醫藥衛生の諸學理とあまたのためしとにもとづきワセリン○リスリン○ラノリン○白色顔料其他いろ〳〵のよき藥を以て製造したる無比の化粧料なれば從來世間にありふれたる化粧下や水白粉ねり白粉とは大にきゝめあり

白妙は人躰に無害有効なるは勿論化粧下に用ひて日本白粉のをそる可きどくをふせぎ前記の實効を有する事は近來がいこくの醫士學士等のじつけんせつと又わがたび〳〵のためしとによりてしかとみとむる所なり乞ふおためしの上御ひようばんをたまへ

○元祖色白くなる三能しやぼん 一個 十錢

○髮のこやし毛のはへる香油一名美人かつら 大瓶卅錢 中瓶廿錢 小瓶十錢

○あれ性の御方は御必用玉子ぬか 一個 五厘

○御おしろい下日にやはぬ水玉のはだ 一瓶 六錢

發賣本舗 銀座一丁目つやぶきん **佐々木玄兵衛** 電話四百七十二番

便利地方大阪賣所左に

大坂四ツ橋本 林丁子堂
函館末廣町 新田太平
神戸元町 精々藥館
長崎本下町 永福號

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

交詢案內

養兒

身元正しく健康なる三歲の孤兒(男)あり若し實子なきを憂ひ收養を望まるゝ仁あらば御相談可申その事詳細は下名宛御問合せあらば御同答申すべし

東京本鄕帝國大學寄宿舍
高根虎松

女學雜誌大取次所

東京市本町三丁目	瑞穗屋卯三郎
同 錦町二丁目	武藏屋藤藏
同 尾張町二丁目	東海堂
同 彌左衞門町	機々堂
同 表神保町	東京堂
同 出雲町	警醒社
同 鐵砲町	指金堂
同 元富士町	盛春堂
同 雉子町	閲々社
福岡縣福岡	積善館支店

神奈川縣橫濱市	共同新聞發賣會社
同	万々堂
京都佛光寺烏丸	東枝律書店
同 新町竹屋町	便利堂
大坂本町四丁目	岡島支店
同	福音社
神戶元町四丁目	福音社
函館市	福音社
熊本縣熊本	草野門平
京都新町二條	大黑屋書店

女學雜誌市內賣捌店

麹町區上六番町、同 三番町、同、同 飯田町、神田區神保町、同、同 雉子町、牛込區神樂町、同、同 肴町、本鄕區弓町、同、同 富士前町、同、同 二丁目

日盛堂、梅仙堂、福音舍、三文字屋、洸心堂、松江堂、青柳堂、大塚書籍店、積善堂、正導舍、深田彌兵衞、文字堂、就本堂、解明堂、盛春堂、古河屋

下谷區東黑門町	三一堂
神田區松岡町	山口次郎
同 旅籠町一丁目	横木
同 鍋町	清水嘉兵衞
日本橋區本町三丁目	庭花堂
芝區櫻田本鄕町	鈴木新兵衞
同 南佐久間町	栗原
同	鈴木
赤坂區新町	赤川市兵衞
同	飯田
京橋區尾張町	鈴々木
同 出雲町	金盛堂
同	山田屋
本鄕區天神町	改進堂
神田區小川町	大塚雜誌店
同 錦町二丁目	良枚堂

其他書籍繪双紙店に於而賣捌く

女學雜誌第三百二十號より改正仕り同號より白赤の二種に別ちたれば五月限り帳簿上も亦改正致度候間舊號迄の**雜誌代金**至急御拂込相成度候。

爲替は **麹町郵便局**へ御振込被成下度候

女學雜誌社發送部

一新誌及び書籍代金二十錢未滿は郵劵代用不苦候、郵劵は五厘切手一割増の事

一雜誌及び書籍代金通運便にて御送付の向は屆け賃とも濟にして御送付相成度候

女學雜誌代價

○白赤双方合せ講讀の分

十冊	前金	五十八錢	府外	六拾三錢
廿六冊(半年)	同	一圓四十三錢	同	一圓五十六錢
五十二冊(一年)	同	二圓六十錢	同	二圓八十六錢

○白赤の內一方講讀の分

六冊	前金	三拾五錢	府外	三十八錢
十三冊(半年)	同	七拾三錢	同	七十八錢
廿六冊(一年)	同	一圓三十錢	同	一圓四十三錢

一冊 金六錢 郵稅 金五厘

廣告料及無料廣告

一行(廿七字詰)	一回	前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

○十行以上一割引。　二十行以上二割引。
○四十行同四割引。
但し不道德なる廣告は謝絕す、慈善の廣告は社議の上無代價にて引受く
○特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭くるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部注文を要し以上半頁毎に十部増と定む。

東京市麹町區下六番町六番地
發行所 女學雜誌社
編輯兼發行人 巖本善治
印刷人 堀口庄三

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY